

都名所圖會

前朱雀
再刻
丑

ル 4
4598
5



門外
號 4508
卷 5

都名所圖會卷之五目錄



前朱雀

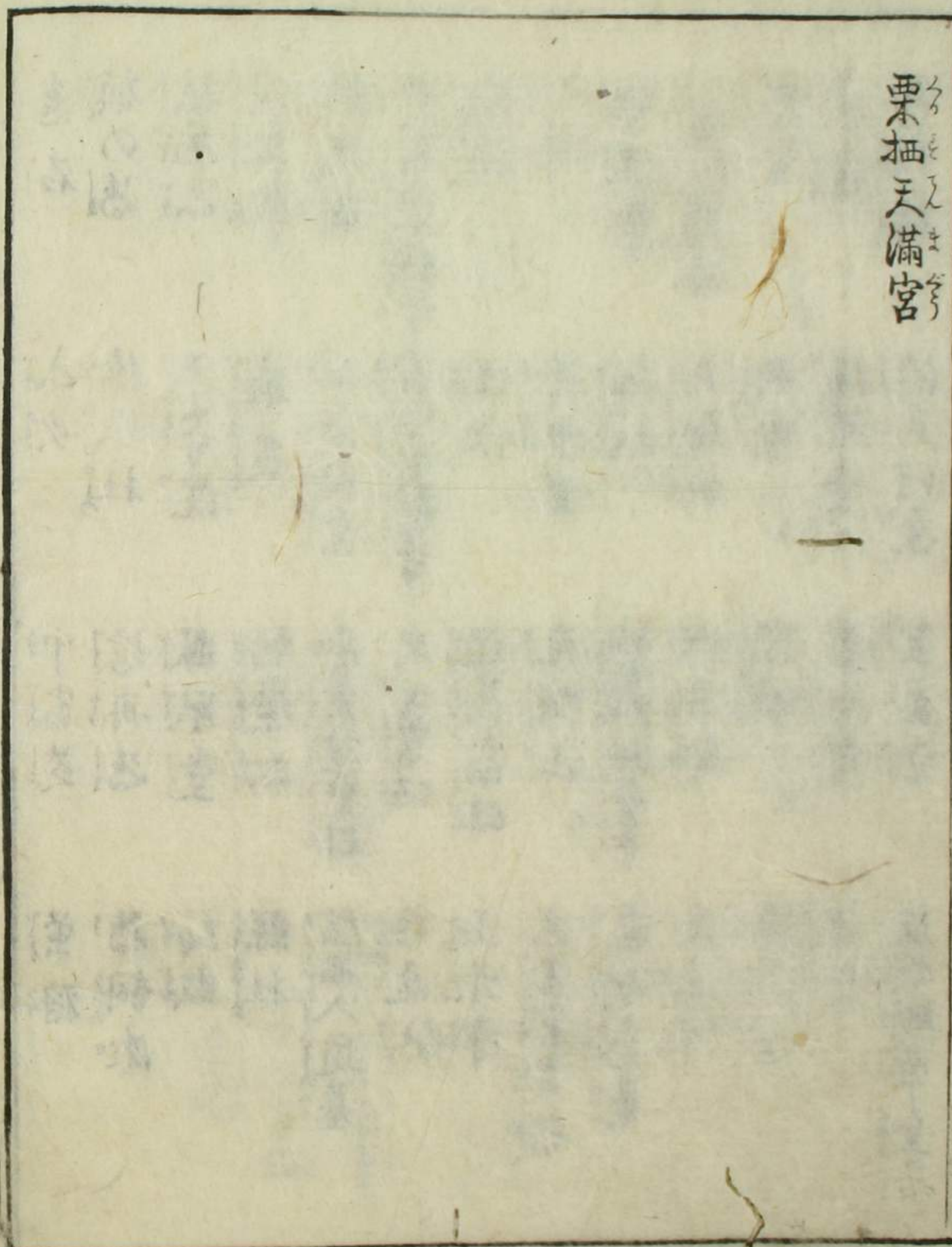
墨染樓	冠石 墨盤梅	美福門院墓	城南社	大荒木森	志水	細橋	石清水	阿弥陀堂	八幡夜神系	地藏	神宮寺	狐川渡	下高良社	上高良社	新向橋	正法寺	浮田森	秋の山	西行寺	鐘本町	城山 梅の名所
梅谷 梅の名所	墨染	西行樓	竹田	淀川	女郎花塚	龍平坊回廊	琴塔	鳩峯	宿院	放生川	餅飼地藏	疫神堂	八幡宮	景清塚	御祭礼場 放生會	淀姫社	水車 夜舟	北向不動院	安樂壽院	墨染寺	涼草少乃回廊

早稲田 大学 図書館
35.1 28
蔵 書

朝日山	宇治橋	茶摘圖	三室戸寺	三室戸寺	京橋北場	長明方丈石	一言寺	少將通路	栗栖小野	石峯寺 茶碗子	瑞光寺	飲津寺
惠心院	通条茶屋	宇治川	宇治山	宇治山	小幡	豐後橋	笠取山	下醍醐	小野	即成就院	元政墓	小幡 新本
真聖寺	橋寺	山吹	喜撰嶽	彌陀次郎旧跡	指月	佛國寺	日野茶師堂	上醍醐	小町水	那須五墳	昭宣公墳	藤森社
琴坂	龍宮神	宇治十帖古跡	橋小幡	美祿山万福寺	六地藏	御香宮 淨香水	重衡塚	醍醐水	栢の本	桓武帝陵	宝塔寺	走馬圖

加茂社	當森	狛里	一休和尚跡	蟹満寺	玉川	兜社	鷲峯金胎寺	點及圖	鎧龜松	猿尾山	槇の湯	龜石
清見河原	海修山寺	瓶原	天神杜	涌杜	井手里	玉水	百丈大智寺	宇治田原	扇芝	平等院	橋姫社	山吹
笠置寺	泰仁都	松杜	經喜都	北右野神童寺	光明山	諸兄公旧跡	久世鷺坂	葵栗焼栗林	駒麁松	鳳凰堂	浮舟橋	中宿芝
後醍醐帝皇居	流岡	園分寺	本津川	薪酬恩菴	高倉宮靈廟	玉井寺	推尾山	信西入道墓	縣社	稻殿	橋飼津	螢將

栗栖天満宮



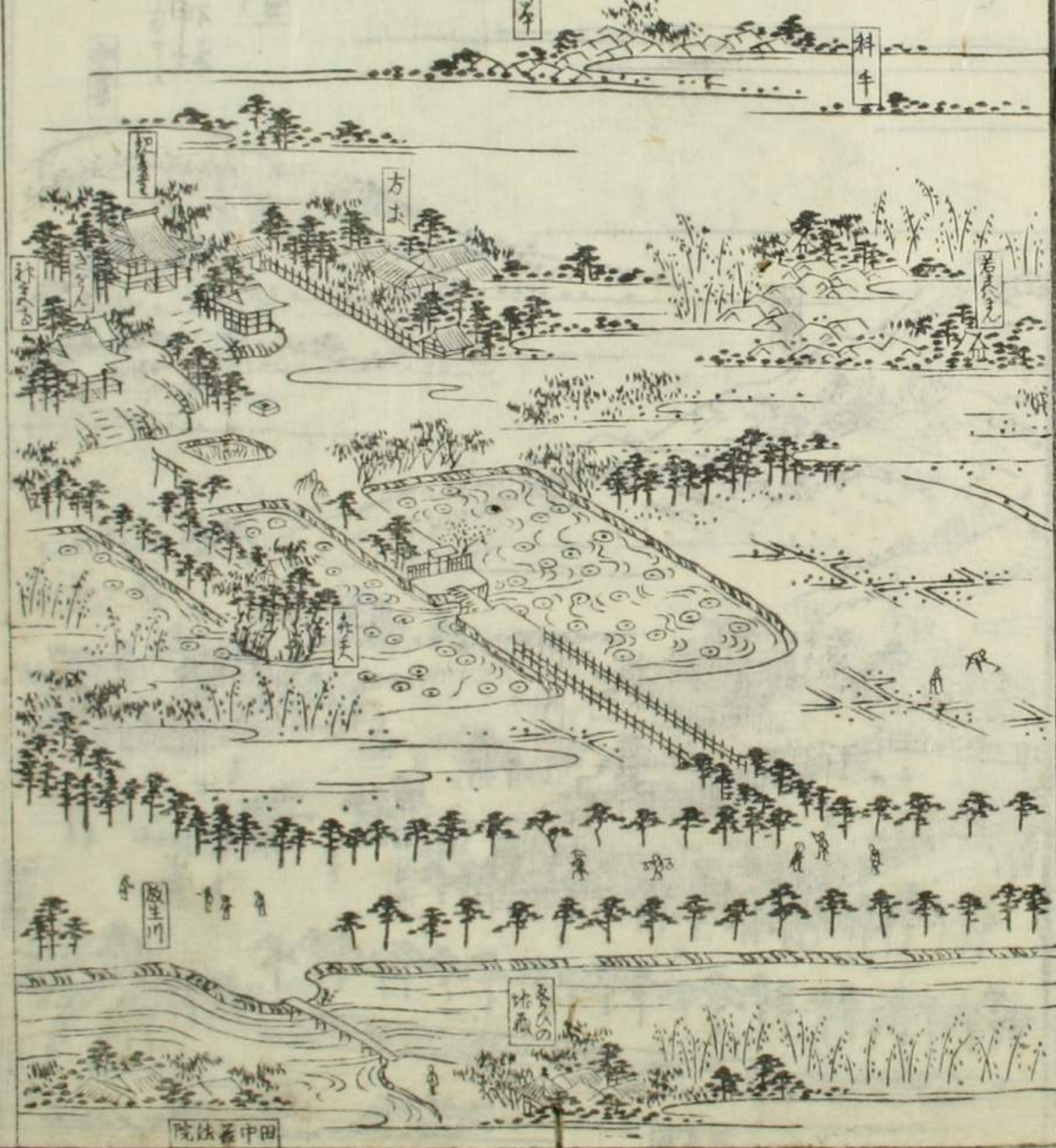
やうきまの下の
 破魔弓も鍵
 どの武蔵も求
 て土産とる神功
 皇后三韓と退治
 あつて御凱陣
 はしつゝの遺
 風あつて



八幡
神宮寺

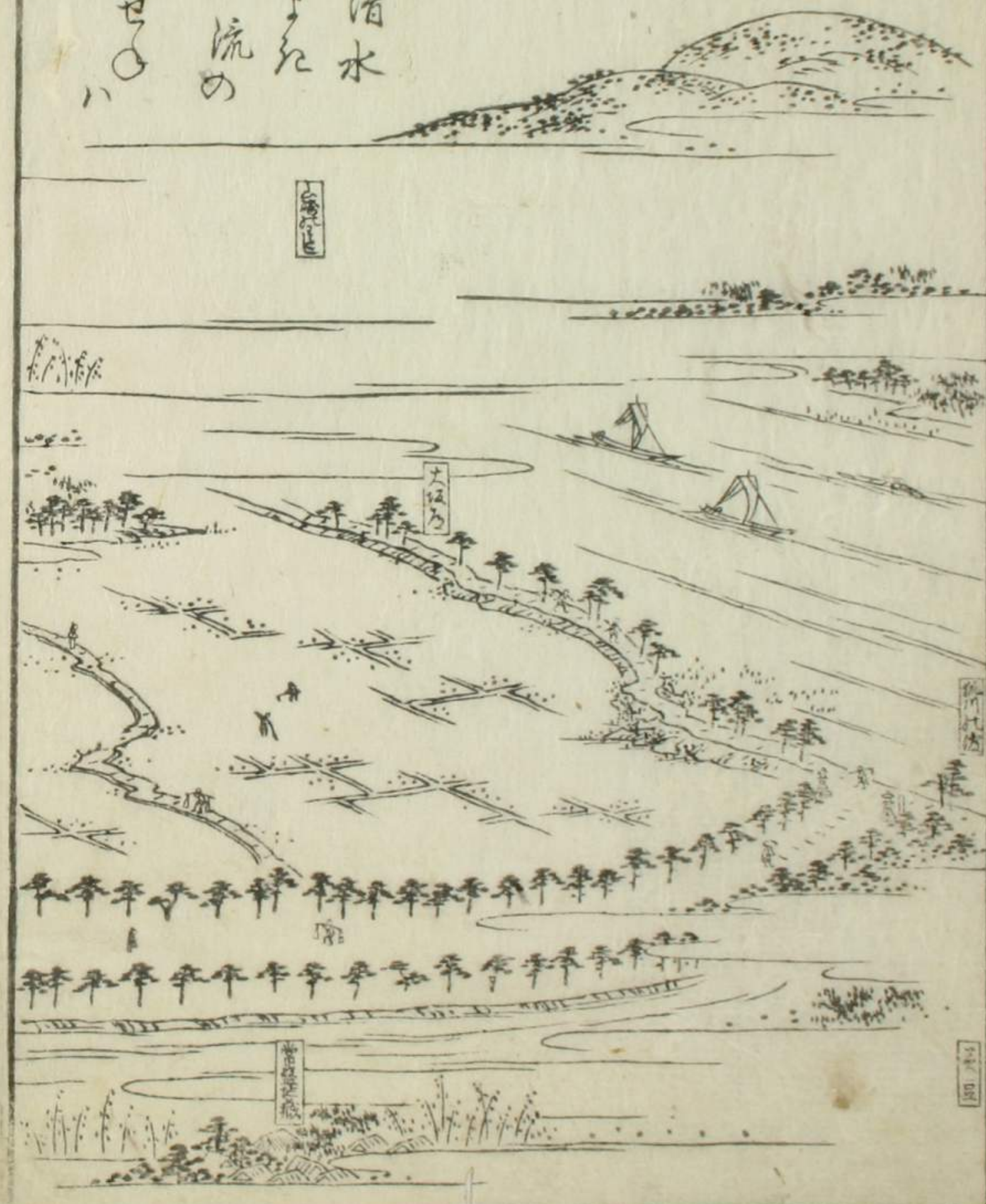
松尾法師

科牛



千載
石清水
流の
絶
世

大坂



御旅所疫神社
阿弥陀堂

鳴の峯

新後撰

おひさ

三

社の

め
く

七

神應寺

新田氏

校生有

子方

萬

1995

極樂

不盡堂

放生川

五

子也

1

岑の

松

うん

按政在政大司

太子堂

七曲

其

小雅

石清水
八幡宮



石清水正八幡宮ハ王城の南にありて約四里綴喜郡男山嶋嶺小湊鎮坐あり

やうてふゆゑに初一あめ内ふに代と松風をぬく
後鳥羽院

本社ハ三坐ありて譽田天皇
日本紀小足仲彥天皇ハ應神天皇ハ是仲彥天皇

聖壽一百 玉依姫 東の面小鎮坐ハ神武天皇の御母あり
神功皇后 西の面小鎮

十一歳 同化天皇の曾孫無長宿禰の女あり
神武天皇の御母あり

三韓征平て筑紫ありて應神帝と生ぬ
聖武天皇ハ聖武天皇ハ聖武天皇

當山に鎮坐ハ貞觀二年六月十五日和別大安寺の沙門約教和尚神

殿敷造宮一たり約教ハ筑紫宇佐八幡宮より一夏九旬の間系統して

益々大京の經教後夜ハ真言教誦して法樂セハ八幡宮神座あり

我王城の近き遷坐ハ鳳凰宮安後ハ國家安泰なりとめんとてふは其

夜約教の二子小阿弥陀の二尊現れり沙門都下て此由奉奏聞一

たりと朝廷大悦せり後ハ遷小此宮神座宮て永崇敬しあり

八幡の神號ハ筑紫宮神座敷の下ハ八幡の宮座あり赤松四流白松四流則ハ所に

社を建て正八幡大菩薩と崇奉する又一たハ八幡の宮座あり

とて名をふりあり當社を約教の御後より兩部よりて老翁わけ利老の座

日一よりありて金帝使の神座ハ唯一の神座なり後年約教あり

一鳥居 松花堂ありて補は

二鳥井 七曲の三鳥居 大師堂の前より石柱小銘と彫正保二年正月從四位

下信濃守大姓永井氏尚政より後遷りあり

若宮 仁德天皇 宇禮姫皇女 水若宮 神座あり

上高良 武内大臣長足寺六胡の長に 下高良 藤原連保長寺神座あり

奉行ハハ故ハ 石清水 本殿の異ハ半殿あり

王座と号し 松とやいふと菰むとる清水の末に流くつるまのらん 貫之

神をたやけとを名に清水をそんやせれ末ぞ久し 為家

橘樹 外殿の教向橘 西の回廊 楠 東回廊の外あり 判官正成新獲のたれ 杉林裁

安宗別當社 楠の傍あり行教和尚の尊子 將尾社 本殿の西六町よりあり

大塔 大日多宝の二尊あり 琴塔 毘沙門天と安良軒の四方より 老子堂 け堂あり

像阿彌陀佛等あり 藥師堂 護國寺といふ當社神鎮座以前草創之 阿彌陀堂 八幡宮神座の元二大師堂 大師の神座ハ神の君の能ハ 愛染堂 盛徳院と号し本を

一、居の南廊下の内ありは所八幡宮御蔭所之疫神ハ正月十九日
 (日の) 延喜式ニ曰山成と橋津の界ニ疫神取寄ありとあり世人

疫神堂の西に隣る極楽寺と称す本尊ハ阿弥陀佛脇士ハ観音勢至と安坐は之尊ハ本尊の布正林の堂前の熾盛臺ハ豊臣

行教院と号に用ゐる行教の
所より
龍奉坊 石屋の傍にあり松花堂惺々翁
昭衆の住居なり文禄慶長の泊の

言画なりと今荒廢小
坊あり
円山堂
行教和尚の像
脇に安坐して眞老僧
大乃係
弘法大師本

小鍛冶宗近は所小新王
名鍛と鍛しるなり

宿院科牛の間にあり當分の神宮寺より本尊の千手観音を安ん
神殿を神功皇后より愛深明王を方より安んじて開基を

本殿の西よりひう称徳天皇より削道鏡より帝位改めらるる旨
おのけの瀦九と辨使より宇佐八幡宮より祈へり神靈あらとゆへるを

足立寺（本殿の西より）稱徳天皇（削道鏡）帝位成ゆりやるを言
 祈（氣）清九（と）勅使（して）宇佐八幡宮（ふ）祈（へ）神（を）慈（れ）とゆ（う）る
 清九上（各）して（け）音（を）奏（する）道鏡怒りて清九の二ツ足張きり（り）かふに
 のせと流（と）舟宇佐の深多ふ（り）然（る）清九張負（へ）て神殿ふ（る）る
 社壇より（え）色の小蛇（は）出て清九（の）脛（を）と舐（く）ふ二ツ足（を）を（の）く（く）張（る）る清九帰（る）
 の後男（は）ふ（か）盛張建（て）神勤佛（を）安（ま）す足立寺と号（す）に

當分の社務ありて三ヶ寺あり義は寺新居に手
田中君はる等て何も武内太良の娘御ありて紀氏より

五清泉
福井縣敦賀市

放生會例 第八月十五日 卯人皇四十四代 元正天皇御宇 唐老四年

九月、小征夷の事ありて大隅日向の両国、大逆乱と故、内裏より執紫
 宇佐八幡宮より祈誓ありて、其宮に祿宜辛勝、豆米の神軍派り来り

てりぬ國征へしとゆるく歎と亡くなり其後八幡の御託宜ふけなれ合戦小倉
の殺せざるに間救せざるに死なり神勅きくたれを法しんぽう必ふかならずあらずても

はゆいり 好る あり
杖叢記よりをとり 後三條院延久二年八月十五日より上船六府の馬
臺辰卯より幸小准にて神樂二扈從一のしりあはれ初めとん

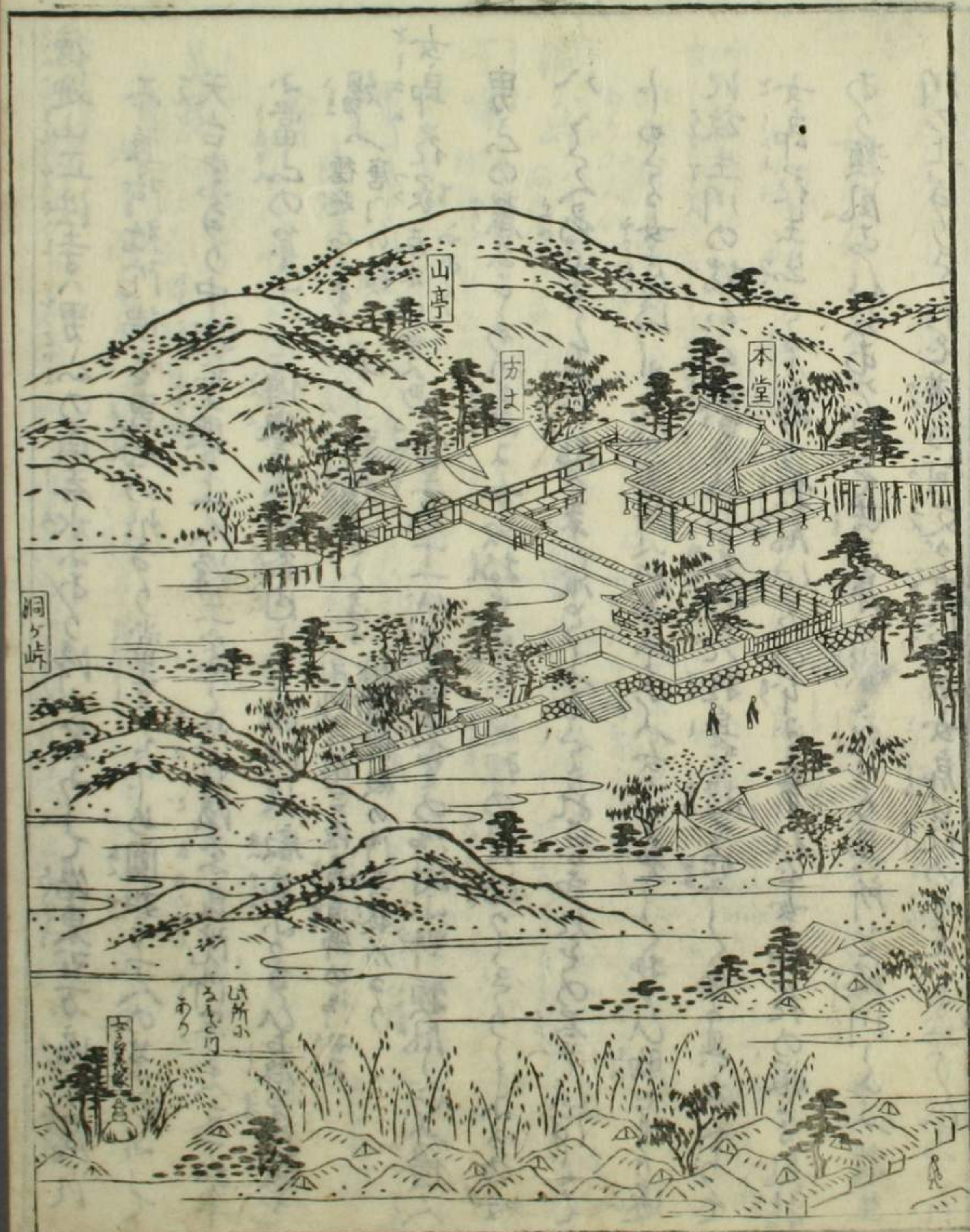
放生川
放生亭より至る
高橋
安居橋

男山秋の夕や契りんにせふる山よりの隣
とものしまのい
 天慶又年より
 ちか

新註
臨甲子二月中午日
石清水さんのかみり
好う

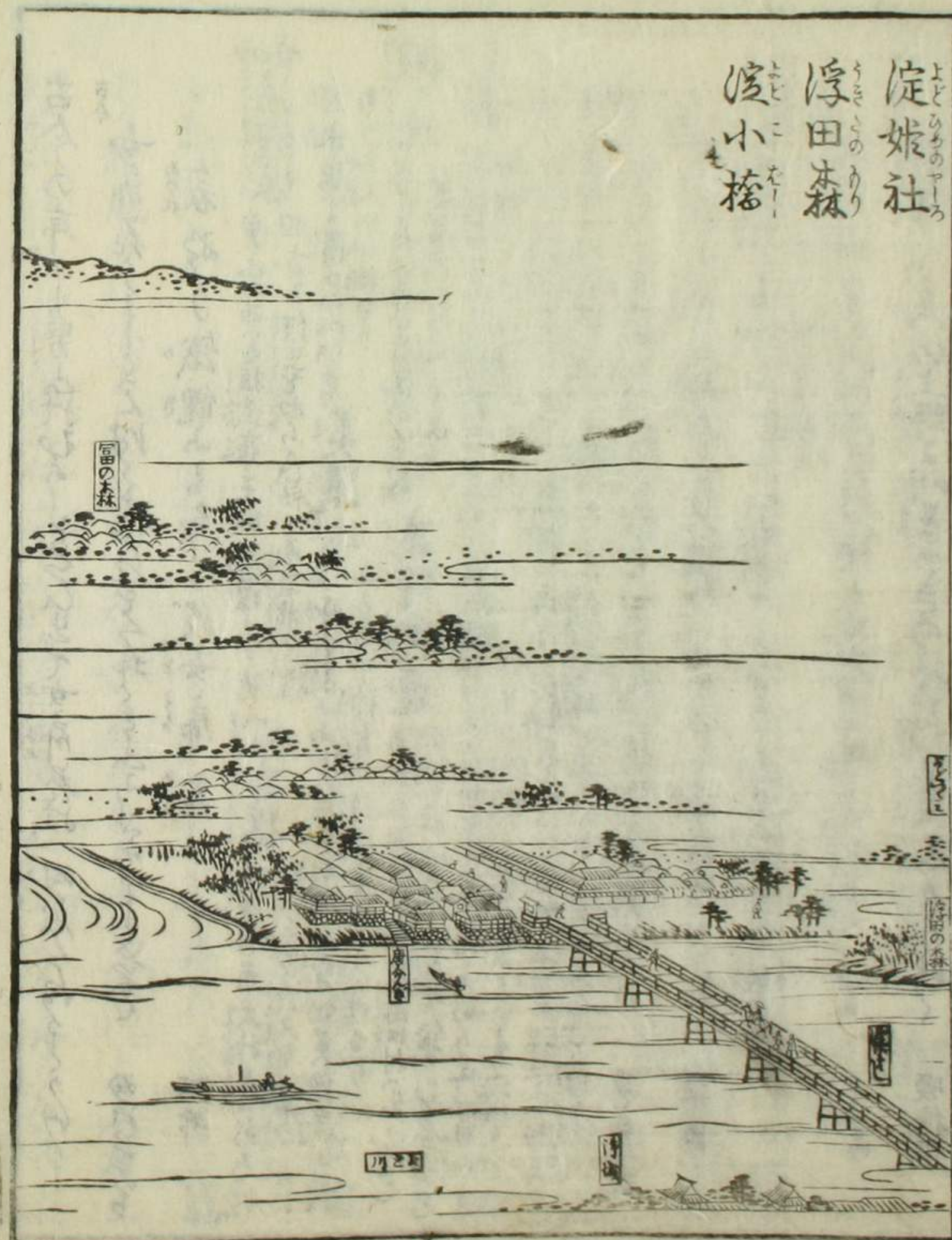
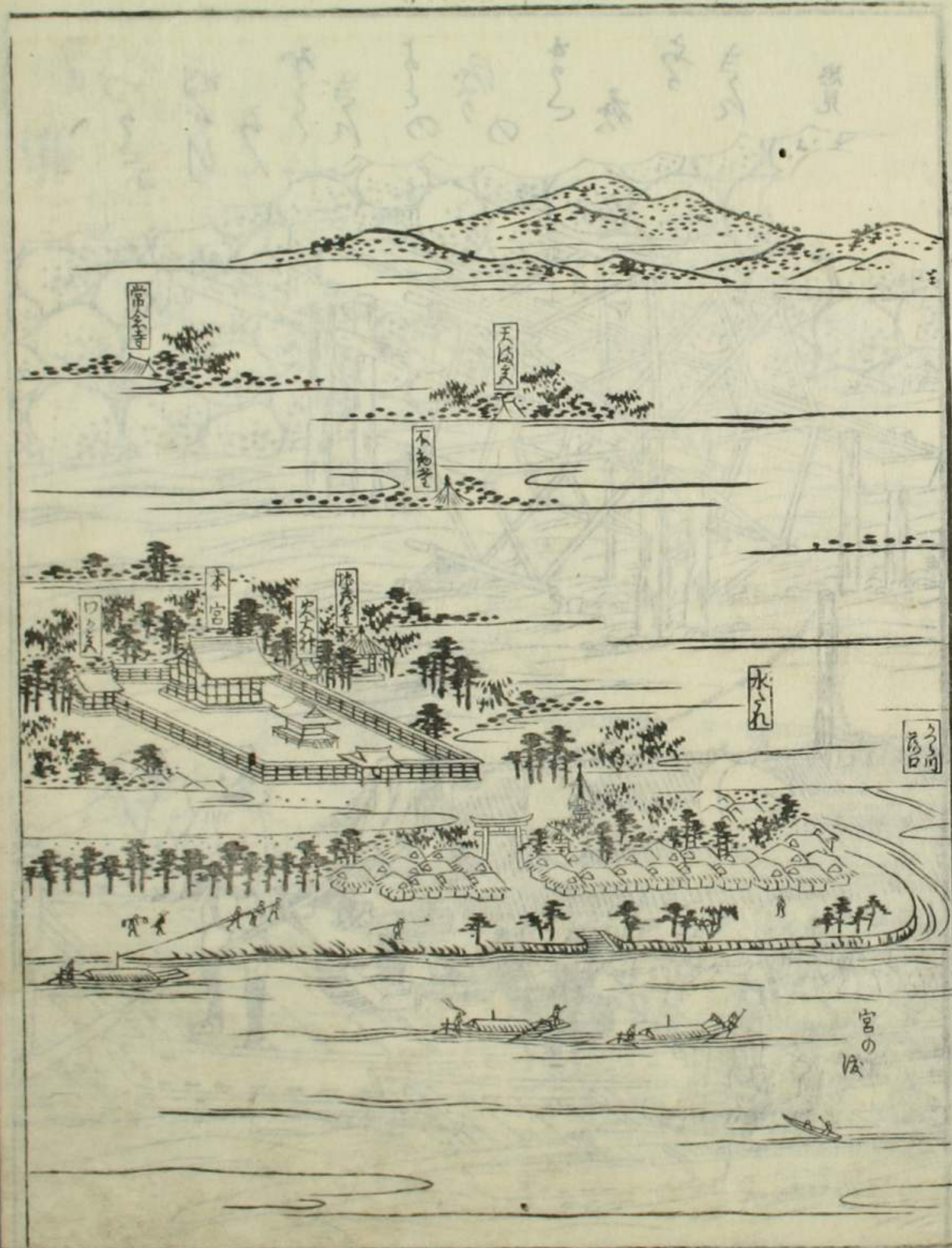
しるもせし夜ふとてさう竹のたまふ人の思ふさうなり
 定糸





德迎山正法寺ハ男山の南志水あり淨土宗ありて洛東百万遍ノ属ニ
本尊阿弥陀佛ヲ惠心ノ化アリ當寺ハ一ノ圓誓上人ノ草創シテ
天台宗アリ中興聖譽上人淨土宗ト改ム後奈良院御宇天文十六年
小當山の身十二世傳譽上人泰因ト説法ニ獻スルハ意ヲ此ノ
場ニ德迎云々あり其上勅願寺トスル
尾羽大納言源義直卿の御母云々
女即花塚志水の南入町人皇又十一代平城天皇の御時小野頼風といハ優人
男山の麓ニあり素々女ヲ抱テ歩ム連理の契結ルニ及リ一ハ女の
ハ一ハ男の如クシテ頼風ニ素々女ヲ抱テ歩ム連理の契結ルニ及リ一ハ女の
トある女房は其の其所へ移ルニ女一死ニシテ其の胸ニ書キテ遂
ニ放生川の堀ニ入ルニ其の夜女ヲ抱テ其身ヲ投テ空ニ其衣ナリテ
女郎花生ズルニ其の頼風ハ其の女ヲ思フニ女女郎花の恨ミ風情
あり頼風ハ其衣アリテ其女身ヲ思フ死ニ其の其所ト溪川ニ放生
川の上ニ其の衣ヲ漢の何文ガ女郎塚ニ女郎花の生ズルニ其の衣ハ其の

古今の序ハ男山ハ其の其所ト溪川ニ放生
女郎花一ノ衣ハ其の其所ト溪川ニ放生
衣ハ其の其所ト溪川ニ放生
如法經塚男山の西ニ桓武帝王城法護トシテ四方ニ鍾王ト云フ所ニ南岩藏ト云フ心ヲ持志水の南天神森ノ外ニ
河水志水の南ニあり美濃山志水の南ニあり高野街道志水の南ニあり岩田志水の南ニあり王塚志水の南ニあり美豆志水の南ニあり又月雨志水の南ニあり胡志水の南ニあり



拾遺 淀
 いづふ
 昭々
 不々
 きの
 よとの
 淀の
 まご
 夜
 みる
 忠見



淀の水車いひう
 よりありて耕種乃
 ためふと秀吉公の
 室淀殿さへ仰い
 ちひより城守乃
 用とるん



淀川五段内第一の大河ありて大國に水ありて帰舎に 山城近江河内

河水を流るる溶々たる所ありて舟を渡す 伊賀丹波橋津

とてたふすもわく城郭のけしきを水車ありて波ふらふ翻々と

めづる領主の茶亭橋上のゆききと茶亭遠くくくくくくくくく

いふ所なり い所を鑑の名をみりて意味あり高貴の献上あり

又月雨ふ岸に青柳枝ひらけ梢を渡りての河に月影をみ 公衡

また月雨ふ岸に青柳枝ひらけ梢を渡りての河に月影をみ 公衡

また月雨ふ岸に青柳枝ひらけ梢を渡りての河に月影をみ 公衡

また月雨ふ岸に青柳枝ひらけ梢を渡りての河に月影をみ 公衡

また月雨ふ岸に青柳枝ひらけ梢を渡りての河に月影をみ 公衡

また月雨ふ岸に青柳枝ひらけ梢を渡りての河に月影をみ 公衡

淀娘のやろを小橋の西ふありて参り神に坐りて中央に淀娘神

西の同天針 若宮を本社に西ふありて多宝塔ありて大日如來あり

ちる當社を千觀法師の勧誘ありけ所の寺河神に例ふる九月

廿二日神樂一基あり 宮の後に當社の多居前より桂川に渡りて小橋

未朝のころ大坂より舟より天神 宮の後に當社の多居前より桂川に渡りて小橋

大荒本杜 いふはややりのふわりと

大阿の杜の下を老ねれど駒もとまらぬ 人丸

大荒本の杜に茶をや成ふたり 忠岑

郭公きふとて大阿の杜を返のや 信明

伊勢向宮 伊勢の宮にありて大阿の杜を返のや

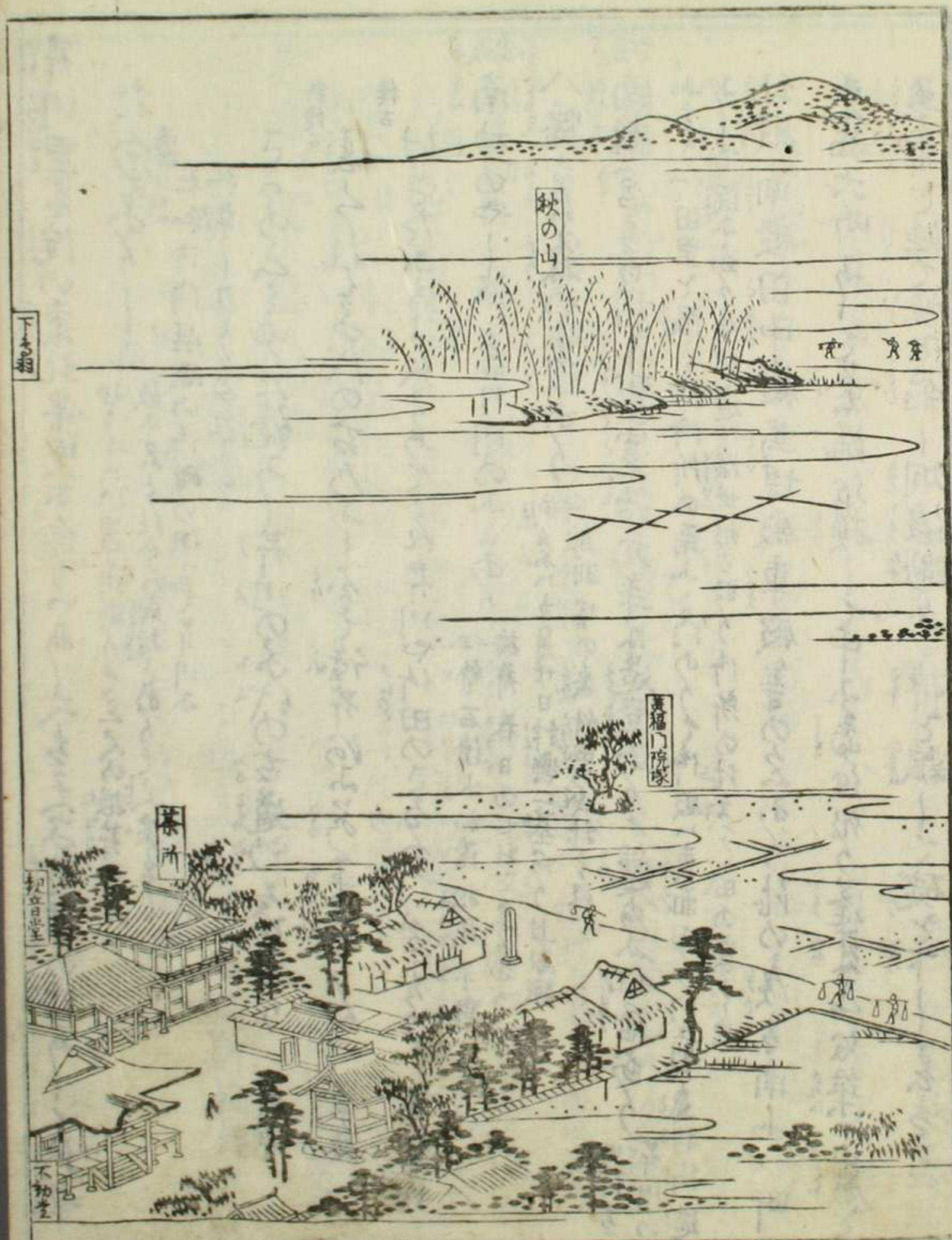
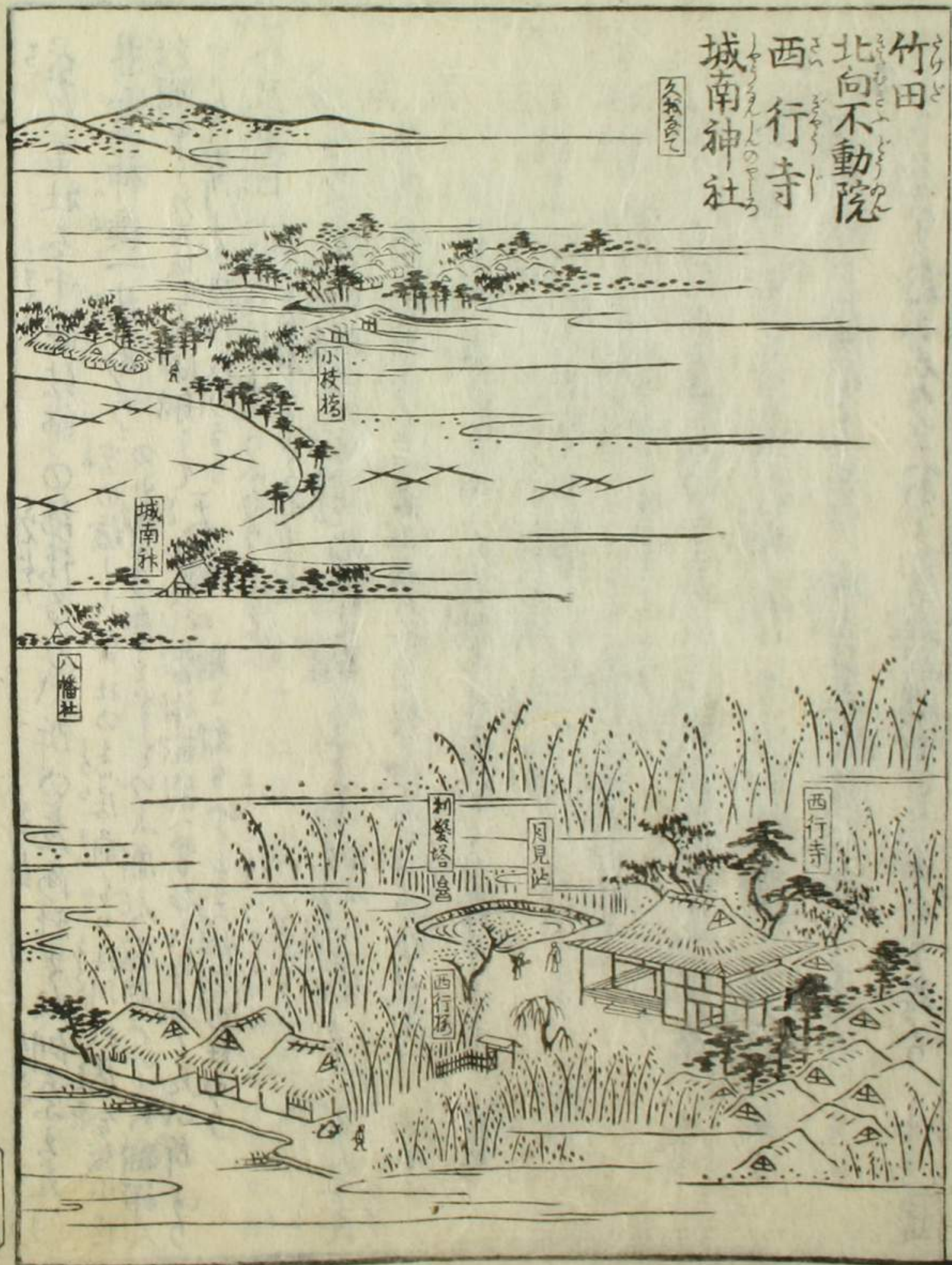
浮田本 伊勢の宮にありて大阿の杜を返のや

あまのふた 伊勢の宮にありて大阿の杜を返のや

下あいうね 伊勢の宮にありて大阿の杜を返のや

津守國道

竹田
北向不動院
西行寺
城南神社
久我寺



芥川里を淀の東北半里ふありいみへを天子遊獵の地ありて幸

たふありし故ふるは里よりありて三人の根芥生

仁和寺門邊の清和の例して芥川ふ

このふふゆれ絶り芥川のみ代の古道なりなり行平

新橋古 芥川のみ代のちたふて芥川ふあり来橋らん 家隆

城南神のやうな芥川ふあり伊勢石清水加茂松尾平野

八幡宮ふ森の東ふあり例え九月廿日神樂三基あり上皇御

城南離宮を白川上皇治元年ふ造営ありて遷るふ仙居あり

北殿南殿田中殿馬場殿車殿等の名あり此の殿を南ふ八町

東西六町ありて茶海を摸して中ふ島を依り蓬萊ふ依築て巖を

舟とて帆と飛し烟浪渺々と掉と飄して礎と下しををたれ

陰めて月卿音楽奏秋を水ふ月を依りて客を承ふ承と吟

上皇をえ来寛仁の清公源ありて里人ふ牛車依永ゆうて

又鳥羽院ふも宸書れは平依保一安樂壽院に定海ふ命

て孔雀明王の法依修せむされ法皇崩して忽保えれ乱あり

後白河院い宮ふ整ふありて宮に基殿してふ田整ふあり

ふふとねく物然しつをえつるも相田の秋れ々々も園位法師

小白不動院を城南神の良ありて奉る不動明王興教大師れ他を吉田院と

鳥羽院れ御建よりて王城の鎮護を實祚延長れ勅願所也

三福門院の陵不動院近湯院後

西行寺い不動院の西側ふあり鳥羽の離ふありて時は新に候

宅地あり

西行寺い不動院の西側ふあり鳥羽の離ふありて時は新に候

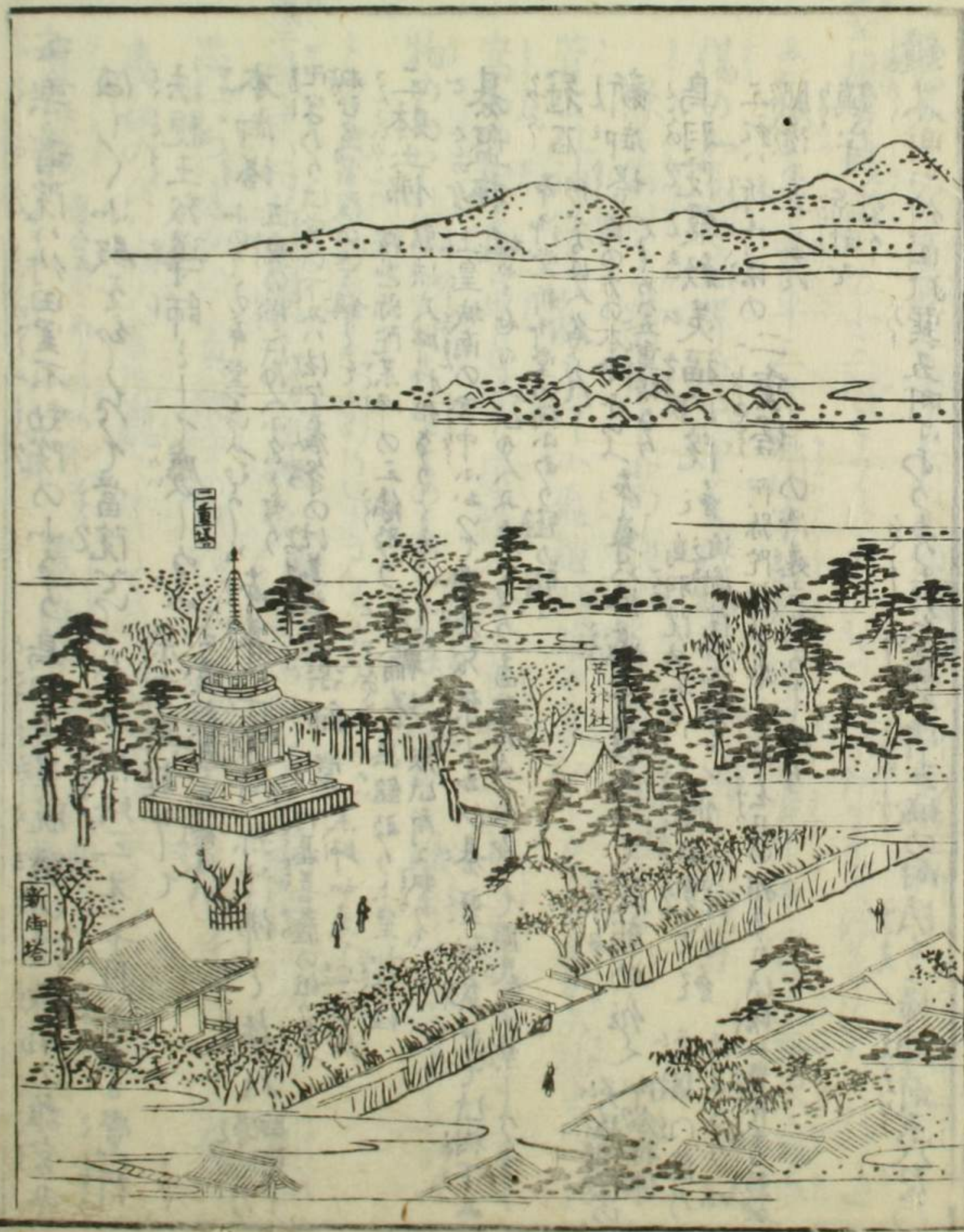
宅地あり

西行寺い不動院の西側ふあり鳥羽の離ふありて時は新に候

宅地あり

西行寺い不動院の西側ふあり鳥羽の離ふありて時は新に候

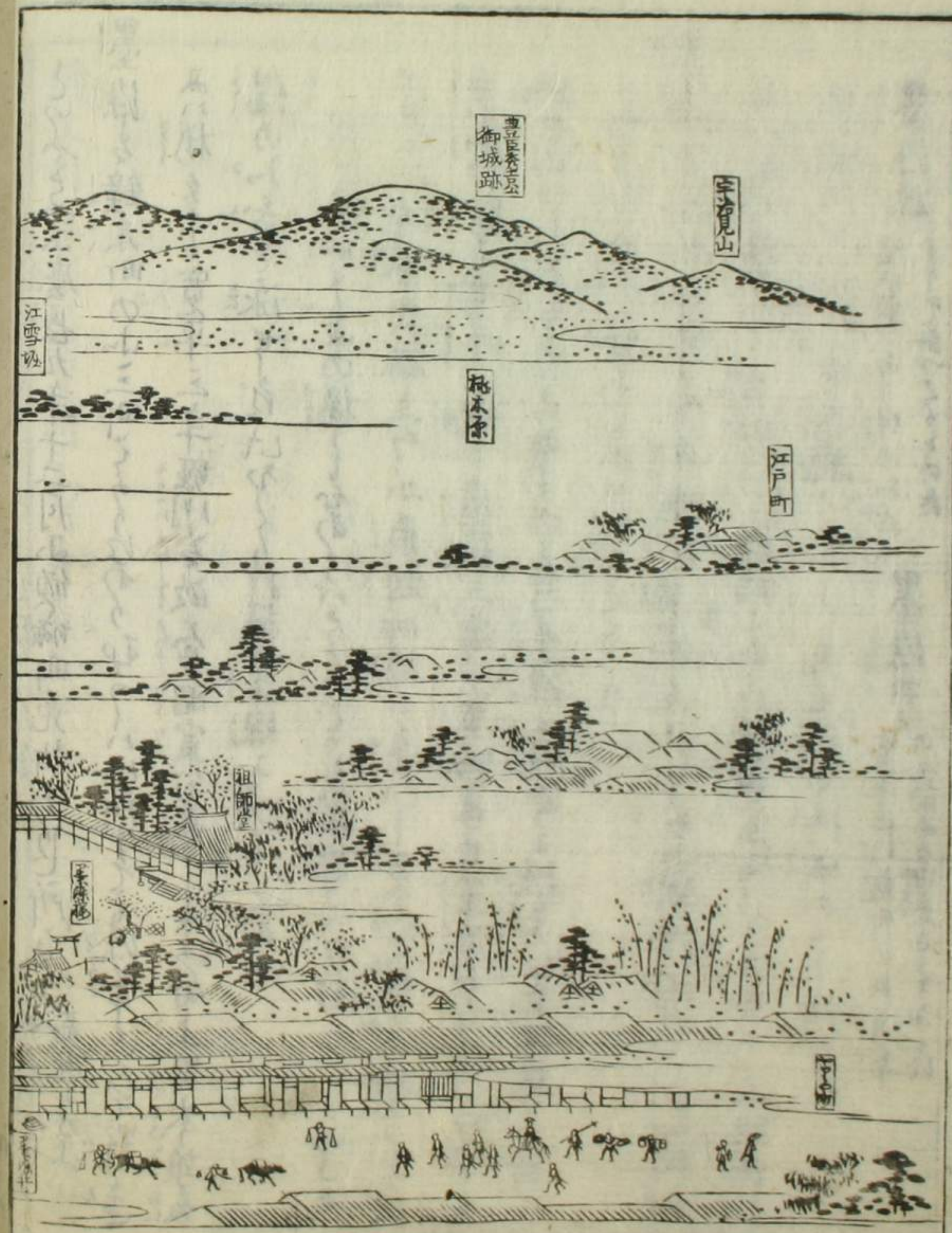
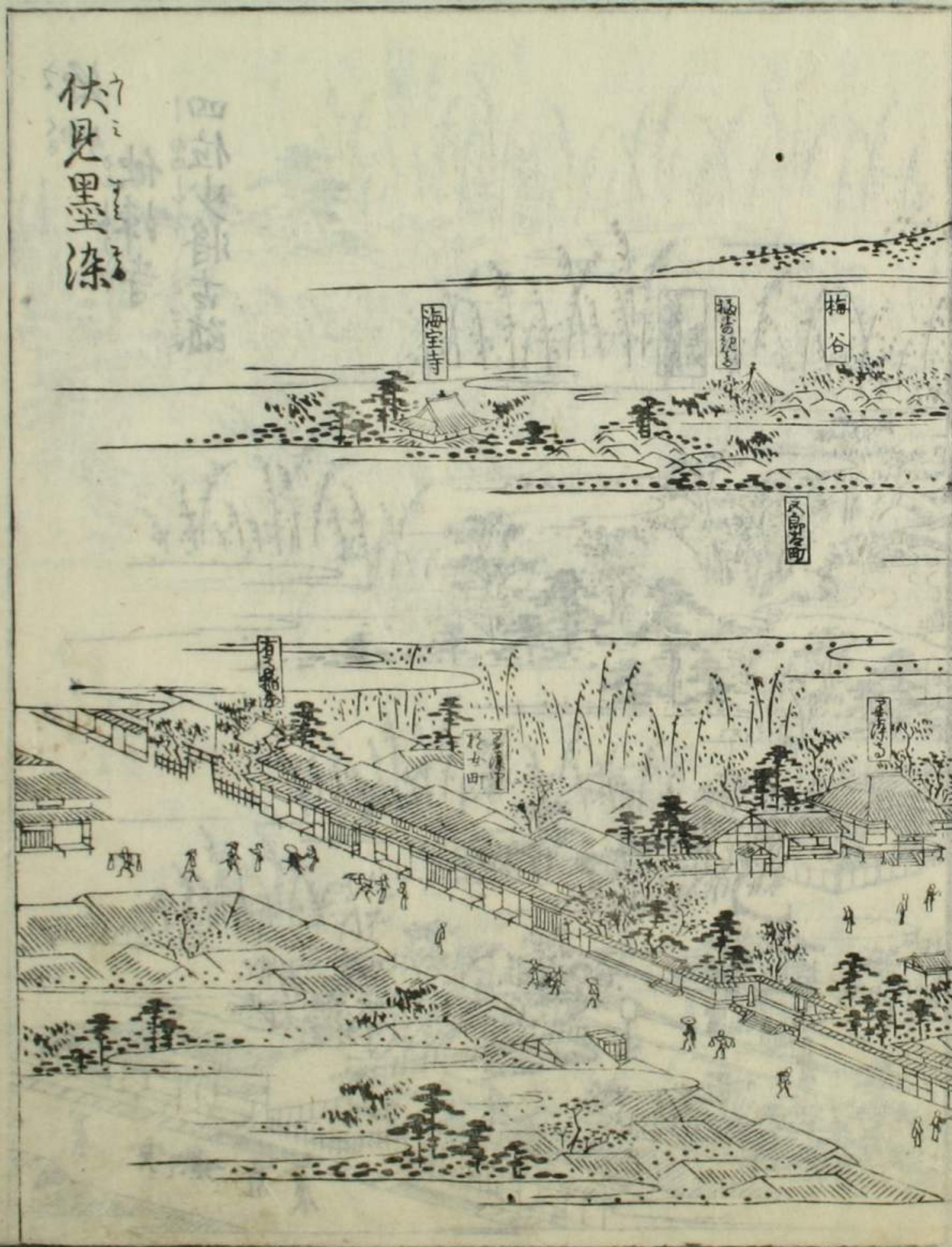
宅地あり

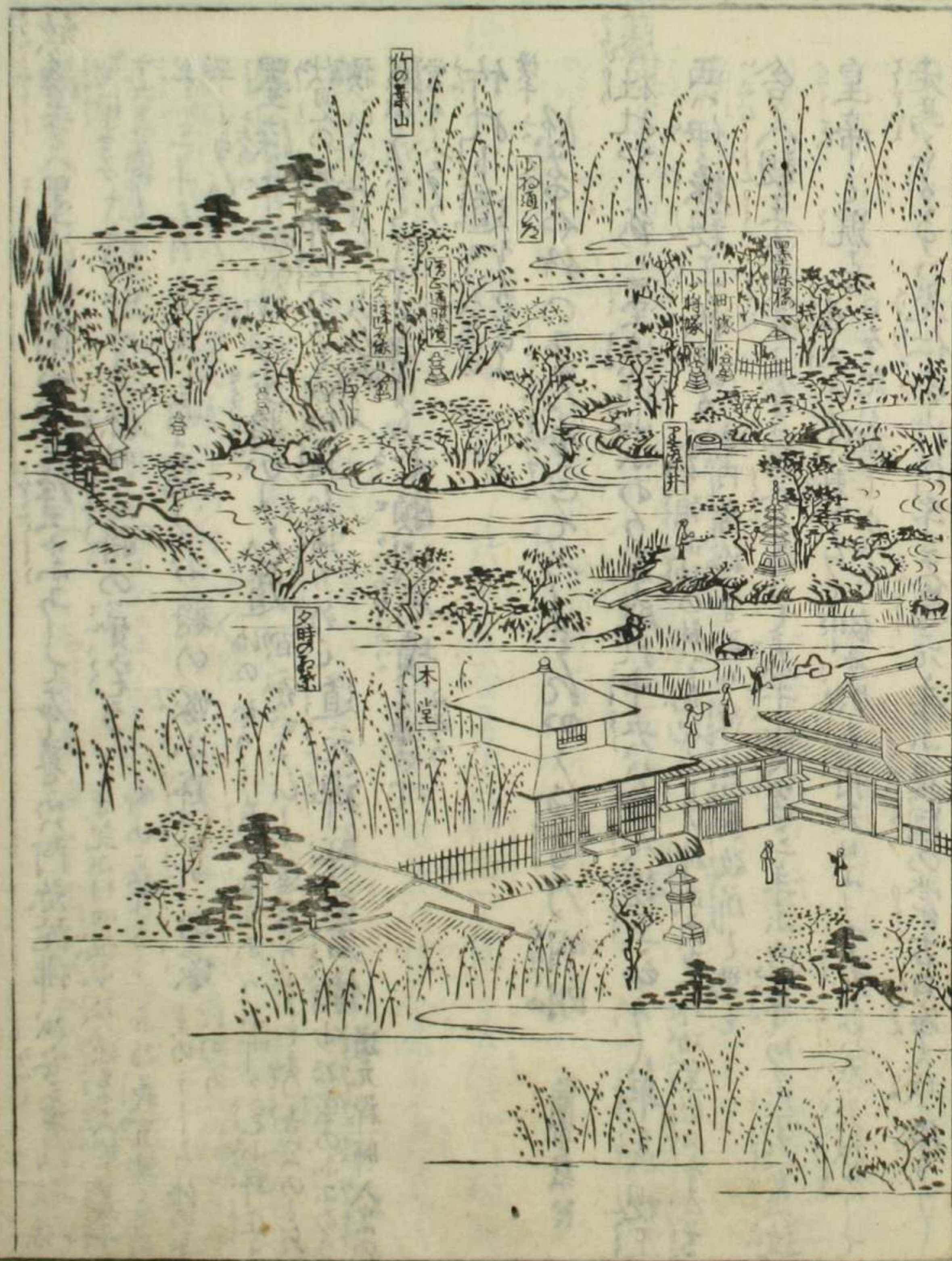


安樂壽院の竹田里不動院のより鳥羽上皇脱躡の後城南の難宮み
ほしく小殿を建てて當院とてかみ保延三年十月十九日覺行
法親王戒導師として慶しむる
宗旨の真言なりて
本御塔 五重の塔はゆへに名をせり 本尊は元字阿弥陀佛と稱し
元字ありは堂の下に法親王の御影あり 藥師堂 行基菩薩の御影あり
二躰土佛 釋迦牟尼佛の三像あり 五輪塔 無銘あり上皇如法經
具盤梅 上皇城南の宮中におつて圓基を築き禁じしを基盤を築きては樹下
冠石 本所堂新所堂の間にあり冠の形なり
新御塔 南の方の本堂をて 本尊は地藏菩薩なりて定朝の位なり
鳥羽院震教美福門院 鳥羽院の女御八條女院にあり 美福門院乃
三教の所塔の二重塔 阿弥陀佛を安置し其日の位なりは塔は豊後秀頼公
照燈の安んじたり 鎮守 荒神と
鐘本町の竹田に巽五町あり秀吉公伏見所在城の時後を掃部前公の

といふ所の小慶長九年十二月小傾城町免許あり所なり 今ハ新經て
墨漆と鐘本町の小二町とありむつは所なりも漆草といひて野邊
みは橋多し寛平三年堀川を改大長昭宣公薨しあつて上野太雄
傷のわをと詠せられけりは橋墨漆と詠しとあり
漆草の形もこの橋をわくこくむりも漆草とけり みよと
菅公は神詠みは梅もろく小飛趙師雄の多しは人々後之の枕とて
嵩山の松を青牛と化し康頼入道の寶物集は茶本をうといふも
物のありは紙知れはききそのまは墨漆と詠今も漆草は墨漆橋とあり
とめられは其のまでもありしとてなり
墨漆寺は旧所南側にあり貞觀帝 清和天皇 隆延のころは寶祚祈めり大相國
忠仁公は建のひし貞觀寺の旧地と今は法善宗よりて日秀上人開基は
慶長のひ方丈書院魏くして秀吉公も御成ありし所なり
墨漆橋 堂の前よりあり件の木あり 墨漆井 當寺の門前町の西茶店
よりてあづかるものなり

伏見墨染





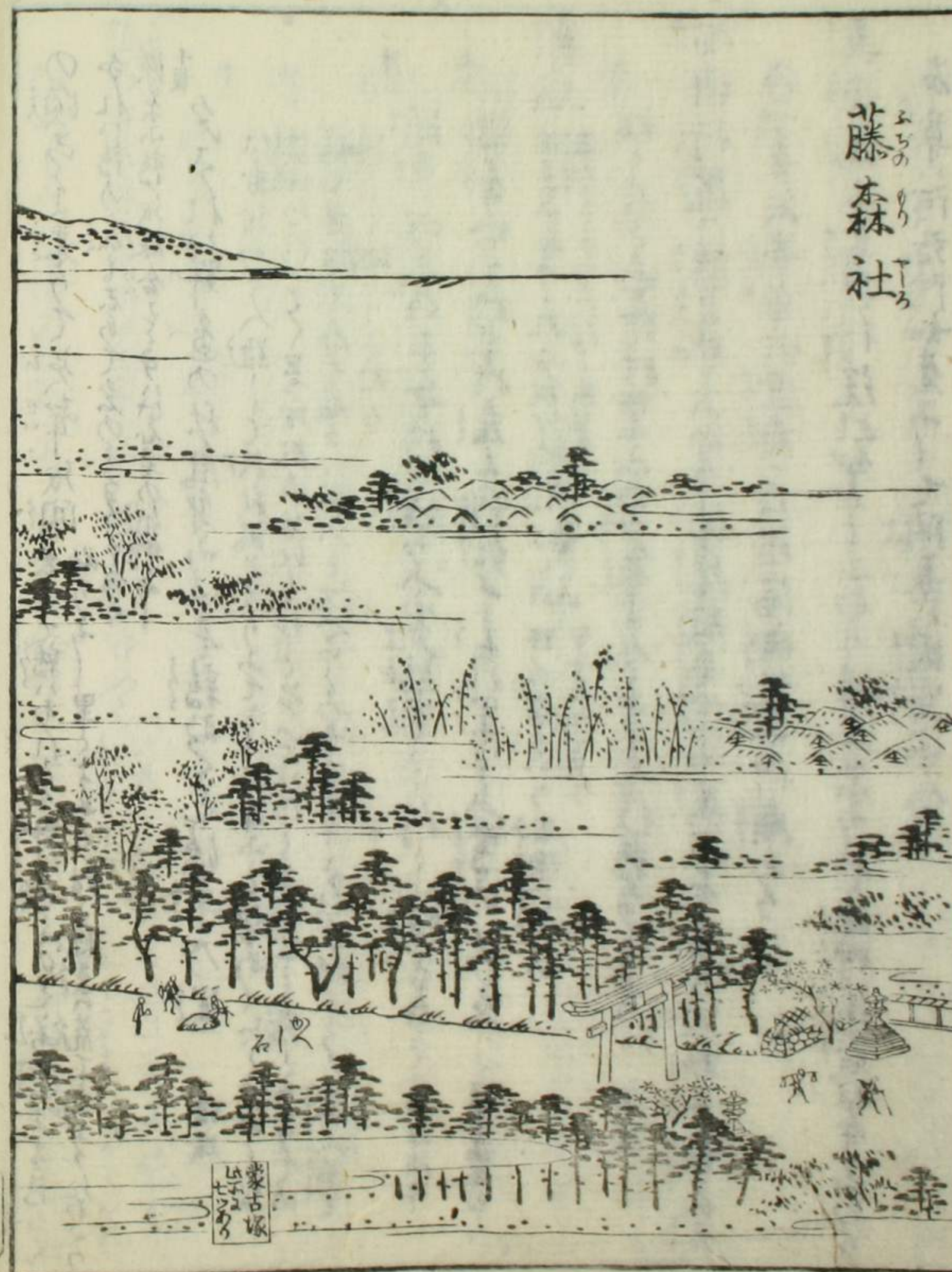
源
州
飲
澤
寺
四位少將古跡

源草天皇れ建のい嘉祥寺も今の嘉祥寺烟と號し空をわたりぬけるの
 塔元慶八年に建りわく近江に園米百五十六斛丹波の園米二百七十
 九斛小貞觀錢十二貫文勅して寄附ある三代實録ふところ仁明
 帝れ陵同女御貞子の墓ある大長冬嗣公の別業に納言時繼卿のと
 莊真幡す社拜志寺大日寺後深草院の後昭宣公の宮の極楽寺も
 今里の名にわたりて遺りぬ源草の郷中の高貴に別莊名賢の古
 廟靈佛の寺院もわたりぬる千載にわたりて村老に
 称ふのと聴ぬ桑田碧海須臾小改ふはけたりれるなり
 源草の里の月夜にぐさもほろりぬれぬる乃秋風 通具
 いふふりふと人の心絶て棲れ雪乃源草の里 爲氏
 源草や芳の籬よりほろりて荒れ里小衣のりらん 雅經
 鶏の床に源草野の叢小巢ふむとわく
 ひろくろ鶏の名所ありて聲に他境に誘われりて都下の詞客中秋

の頃より来りて是聲に聞かして鶏のわたりぬる野に鳴くのと
 かれい鶏の床もわけて名のなるなり
 源草小鶏の床もわけて名のなるなり
 夕ふれい野の秋風身よりほろりて鶏のわたりぬる源草乃里 俊成
 はふれい人難して秋風よりほろりて身よりほろりてわたりぬる
 後藤にわたりぬる星風よりほろりてわたりぬる又曲る鶏のわたりぬる
 鴨も身よりほろりてわたりぬる又曲る鶏のわたりぬる
 源草のふのふれぬる源草乃里 家隆
 源草やうのふれぬる源草乃里 家隆
 奥山 源草のふれぬる源草乃里 家隆
 安樂行院に源草のふれぬる源草乃里 家隆
 の二尊安樂堂前より後陽成院の清廟あり
 真守院を安樂行院にわたりぬる源草乃里 家隆
 本尊の阿弥陀如来よりて開基の園空上人



藤森社



藤れ森の勢い毎半
 五月又日ふし一當社の
 神蒙古退治れ為出陣
 一の月より春を
 宵宮より神前小鏡と
 鍔とあの日一様稲荷
 庭の敷あく堀より
 走り馬あり



世ふ端半の佳節ふ
 武老人形とあふり
 蒙古退治の吉節
 ありあり



瑞光寺ミツヒカリの
 涼草スズクサ極樂寺ゴクラク村ムラあり
 佛殿ブツダンの本尊ホンソンは釋迦佛シヤカブツ
 法武人胎中ホフブジンタイチュウの明曆メイリキ

元年小元政上人草創ありて法義道場とて入
當寺境内の字に手師堂と云ふ
寺に在りて手師堂の實地あり

元政墓 佛殿の西より塚の人より竹張植う之政法師
常ニ携ふ竹の杖を之の杖葉茂りて

道の記之政旧菴

その海門日蓮宗ありて常の佛に救ふ人ぞ
たて釈迦のみありて又てなきなり成

消れぬ
釋トク加カふ
涼スズシく
や秋あきの
色いろ

鬼貫

昭宣公の墳ハ瑞光寺の門前ふわり大塚ありて巡十間餘之上ふ小社あり
三十番村

古

[illegible]

僧都勝延

極樂寺の圓乃寶塔寺瑞光寺并境地の
大鏡曰原孝天皇を并川に命ぜられた時帝は病を
のすに血を垂れて去る人召宣公幼童なり時

帝は供奉し、爪のうせあるを、怨をぬき、諸佛ふりて曰ひ、爪を求む所なき、如夢に建んと
誓ひぬ、果しては里ふて得ぬといふを、帝より還ふ、極楽に創建ありといふ

保胤が極樂寺の賦は東六の勝地は象外の境空中の天より雲より碧羅空あり

翠浪の湧き如く谷水の玉虹の流を眺むといはるゝも其勢千万仞の空を射る

如く飛泉を細くとも其聲遠境小庵中にもなる
今此宝塔寺七面山の
新に改築するなり

3



瑞光寺
元政法師

舊跡きよく



寶塔寺



近幸
百丈山
石像の
五百
蓮花を
蓮座に
頭を山
安小
うん



深草山寶塔寺瑞光寺の北より法華宗ありて本堂より釋迦多宝の二尊高麗
 日蓮上人の像と安永に廟塔より日像上人のありて題目の石塔婆ありて下より
 日蓮日朗の遺骨収むる石塔婆ありて日像の説法石の釋迦千鉢堂の内より鎮
 守の社ありて千番社をあら七面明神社を本堂の後よりありて是經宗擁護の社
 あり九月鳥居の額に政上人の寺の當寺の舊極楽ありて直言律宗兼なり
 延慶年中に住職良桂律師日像上人の教法に於て法華道場と改む
 百上山石峯禪寺の宝塔より小の隣り田の芳壁の二世千呆和尚
 佛殿の釋迦佛額の濟世法王と左右の聯あり共千呆の筆と表門の額を
 即非の筆ありて高着眼と書けり
 薬師堂の佛殿の前より本尊薬師佛長四寸惠心僧都に依りて多田
 満仲公の念持佛の村上帝清宇天徳二年の攝州多田卿の満仲公
 伽藍造営ありて沙羅連山石峰寺と號し本尊紙安永に其後文永
 の次兵火のこめに諸堂圓祿よりなりて耐けざる像石の幽に収めり中より埋むるあり

霜星累りて慶長元年の春沙羅の夜あり卿舎に張懸み其光を
と穿し六つの石函を得たり蓋に沙羅連山石峰寺茶師依の銘あり則に宇坂
宮で安んじたり八年に菴主宗玄といふもの小室中の靈異あり非近所
寺に遷し安んじし普人民と化せんと宣宗玄佛意は但て自眷を顧み
みせり五条にあり因幡堂に暫安奉し柱多く五條の橋本若宮八幡の意ふ
堂舎を建てたり石峯寺と号し宝永に頃僧千呆和尚常ふに法で
薬師堂に尊信ありて曰我異國より日本へ渡り其時公の祖席に司職と
事偏に靈佛の應現ありとて厚く瞻禮恭敬せしむるを公命ありて
今に如く百丈山と改めたり尊像は石峰寺とを號したり
茶碗子清泉の銘に當寺の門前南のうへにあり
即成就院を源草れとて大龜谷ふありを阿弥陀佛の坐像に脇壇に二十
五菩薩より惠公の位に靈像の惠心僧都殿嶽横川にありて説法あり時
まの老翁ありたり北に南に山に里に位との一齊と捧ん奉りて惠公其

詞に應じて伏ふる指月のうへに艸唐の翁より佛の同清極樂
土の寶味ありと捧し僧都奇異のいなり老翁の心をいふを我
佛に世あり唯摩居士の化現と師の法徳に感てあふなり惠心を下りて
拜し其正真の如來を拜せん翁則西に空を向て敬禮し其を
終て紫をぬぎたり其樂と共本主阿弥陀佛二十五菩薩空中に現れ
り翁ありて老翁諸に西に天を飛る僧都感信の餘り則來連の相成自刻
當寺の本より一ひ又壽永の頃茶師與一宗高平家追討のる出陣の
當院は消で祈誓して曰今度我場におん登候時より一人當院を再建と
ぞと則佛前の幡とを笠に西海より檀の浦より扇の射て名譽を
天下に流し是をその擁護なりと堂舎を修造し願を成就の奇蹟
世に傳へしやん即成就院とをうけたり
那須與一宗高石塔堂のふあり高きを大計りて
無銘なり石塔の内にあり
軒端梅梅のうへにあり
由来詳なり



即成就院
那須市宗高塔

ありて容顔艶くた女あり名とお龜と稱し自然と所の名呼て又龜谷といひて

勸修寺の大亀谷の良の方へ
け所の名は、勸修寺村
當寺に、宗旨は華嚴ふま言と

四年の建立^{えんりゅう}して奉^{かん}願^{ねん}石^{いし}宮^{みや}定^{さだ}方^{ほう}なり東大寺の寺務^{じむ}して勅^{しゅく}修^{しゆ}寺^じ

大石屋鋪 勸修寺々々七町々々 乾山科卿西の山岩屋明神れる場先小側葎の中ふあり
大石内庭外良雄表所が新修のなきた替居に近年碑の修代建ち

さくばのふもとの 花らんめりてふん
大納言様人

大宅寺
勸修寺の北大宅村の南あり古く所へ大職冠藤足公の居館あり今と曹洞宗
月城和尚一字致遠て大宅寺と號をけ里と大宅とる川より西の閑院大屋

冬ふゆ嗣公すこうの津つ孫そ高たか茂も殿どの杖つゑのそと小こ鷹たか狩かりふ歩あるの山やま料りょうのきいゝやの園のゐとほくいふ人ひとに
風雨ふうう頻しばしばみて雷かみなりふりたれを供とも人もちくふありは君きみの馬うま飼かひを人ひと供ともしてとある門かどの

五十九

ゆいぬふねも雨風ほそら雷怒一々いへ今春は屋小寄り十二四娘の女のわりし
契り紙を祢のるた方(腰掛)とさかぬ其後六年成るまで変りくちハバ屋とフ

多しをたてまつるのつゝきり立ちて膳小居たりは思ひをこしひかへて
 とて立ち入るやあはれやうたねわくぬ身ふりて奉ゆるは家のまはけ郡の大領宮道弥

とすてまれば前の世のなやめと名を済新小はきて歸て西の嶽ふとてさゆふおはとんかの
まほ二人はむり高嶺ふとてやんきとて人なれて大納言ふとてあひ男二人は泉の大將眞才

二条右大臣は姫君を宇多天皇の位にやうにすべし女^ふ主^{しゅ}のみを母とてよくそめく醜^う醜^{しゅ}の清^{せい}へ
となくともなりぬ^ゆ益^{えき}を四位よりて家を今の勅^{ふく}傳^{でん}するもむむの家の塔と建てた定^{さだ}ま

の人意
 大宅村のやうにあり
 白号張ふ階寺といふ
 岩屋の社南の藤イ

興福寺の旧刹
真福寺橋石屋の社鳥居れ堅くあり
功免寺の東之曼荼羅寺と号し
真言宗なり

曾正之法そとより勢小野御門跡のりひさと称し、撰家江津連枝信職えつるね一人因基仁海内よこくにみち

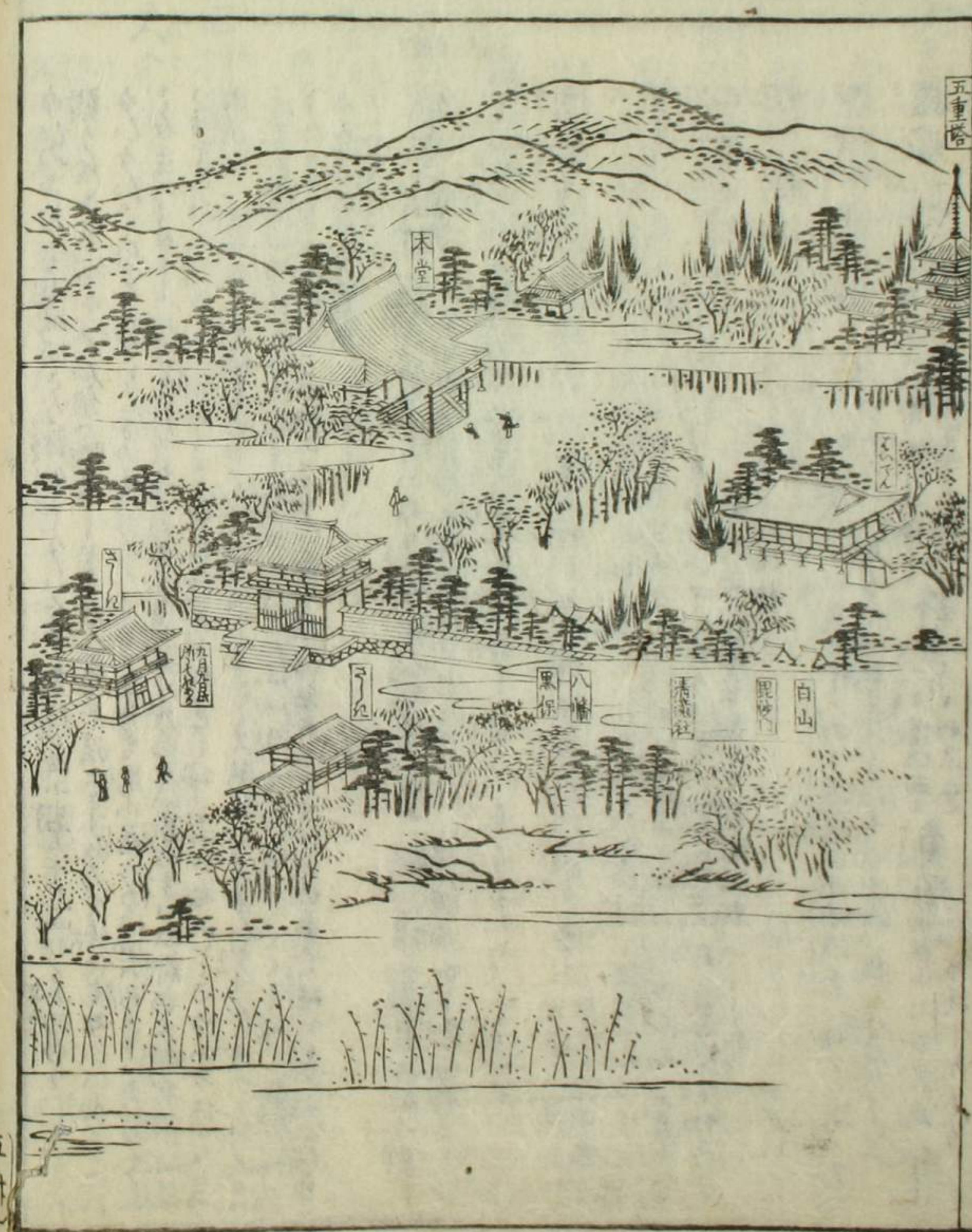
二年六月、又小早川此僧正、勅して神泉苑にお移りて春雨經の法を候。早稲願ふ大雨、
津三日、庚辰、多雨、詔ありて皆雨成り。又、雨、僧正、早稲、永承元年五月十六日

寂年九十二
已上元亨釋書
小町水
門内南の森の中にあつた所は郡司の野良實々宅地なり
女小町はのふけ水反愛して森を衣裾いゝと云

柘トの樹キ 庭のふちの
 百餘ひゃくじゆの樹キ 益えきありとせ

深艸少將の通ひ路
醜醜仕還の無側若の艸はなり墨侍の南竹仕寺はれち方西か宛
百疾のゆゑはる竹林とくもいふへち行一様もせざんとす

櫻塚 里の西にあり
一説は小戸宮道の墓といふ
野色山 道の西にあり
真塚 四位おね百務通し
ねん 所より



上醍醐



深雪山醍醐寺小野南より山上に醍醐といふ藤と下醍醐と號は示す

真言宗にして修驗道といふ所は當山と号し本山といふ

理原大師 延喜四年の建立あり醍醐末代帝王の御預あり

法務二寶院御門跡と稱は 攝家の御連枝 當山は醍醐と號するを聖宝

尊師佛法相應の靈地を得て為一七箇日祈念して五色の雲當山の

峯小聳ゆ則ち小月輝りまゝ巡る獨の老翁來りて清泉を濯ぎて

醍醐味ありといひ尊師ありまじく古佛練行の洞諸天衛護の砌前

佛の遊處名神の所居にけり是地主の神棲尾明神之永此地は佛

小獻へ早く精舎を當てて度く佛法弘群衆を利しめり擁護せし

云終て見ん又指の多き三寶を唱へ尊師沐感涙を流しけり上卷

延喜帝御小敷感ありて除病延命あり當山の諸堂を造りぬ

本堂 尊師如來と安んじ圓縁の 岡山堂 弘法大師理源大師の 五重塔 佛言

曼荼羅と 清浄権現 沙迦羅龍王第三の御所あり例なきは 藤戸石 三寶院の石

本尊と 九月九日山の前より猿樂あり 五叶三

藤戸浦に佐々木三郎盛綱高名なり浮洲の

岩て天正年中聚樂亭より此所へ移り

長尾天満宮 本堂の北にあり九月九日にて神饗 花見山の地 天正軍記

上醍醐 藤戸の山の上にて二十町小一町毎に標石あり石面は梵字なり推僧正

青龍社 龍神を祀り石社にあり 醍醐水 不動明王を祀り

理會僧都の祀あり延喜帝御清願より朝敵如意輪堂 本尊如意輪

平將門降伏の地あり延喜帝御清願より朝敵如意輪堂 本尊如意輪

聖宝の祀あり西國所 藥師堂 本尊藥師佛に惠理僧都の祀あり堂

後あり 祖師堂 中央聖宝尊師南弘法大師の御賢僧正と尊師人の

の鱗二ふとも 寂靜谷 祖師堂の北にあり每歲七月六日當山の千日

堂内より 寂靜谷 祖師堂の北にあり每歲七月六日當山の千日

又當山の松松翁鬱として常小白雲拂く落葉封じたるに觀々

して旭日れ歩る遅く靈泉に混々と玉を注ぐ如く堯の附徳

茂し清平なれを醴泉出夏後の附俊才官小なる附る則醴泉涌と

いへりも醍醐水のさびさるへ

人皇六十代の帝^{みかど}神代^{かみよ}諱^{なづな}宇多^{うた}帝^{みかど}第一の皇子^{みこ}五位^{ごゐ}之下

三年 延長八年九月廿一日崩
壽筭四十六 延喜御門と欄に

朱雀天皇陵を曰所陵ミヤタ所ミヤタ小ミヤタあり

醍醐帝の皇子ありて六十一代の主上なり
 五位十六年天曆六年八月十五日崩す

聖壽二十歲
天曆御門と称は

一言寺を醍醐の南里ふわり

眞言宗しんごんしゅう
醍醐寺だごうじ 本尊ほんぞん 千手觀音せんじゆくわんおん

安阿弥の能る内侍堂より當寺の本願阿彌因侍の像と安彌に

少納言すくなご言こと旨さだめ西にしの

直谷南禪院を醍醐の巽ふあり成賢僧正隠遁の地なりをまゝ阿弥陀

佛の坐像ざざうとして春日かすがひのゆるり側そばに地藏尊ぢざうと安坐あんざに
信しん一いつ々々を一夜ひとよの間に

多くれ田原榎金一と我
世人田越の地蔵と號を

笠取山

醍醐のさうり町多一里の峠ふと城近江の園場あり
岩間寺は五場さうり二町むうりふあつるさうり足す二里ふと

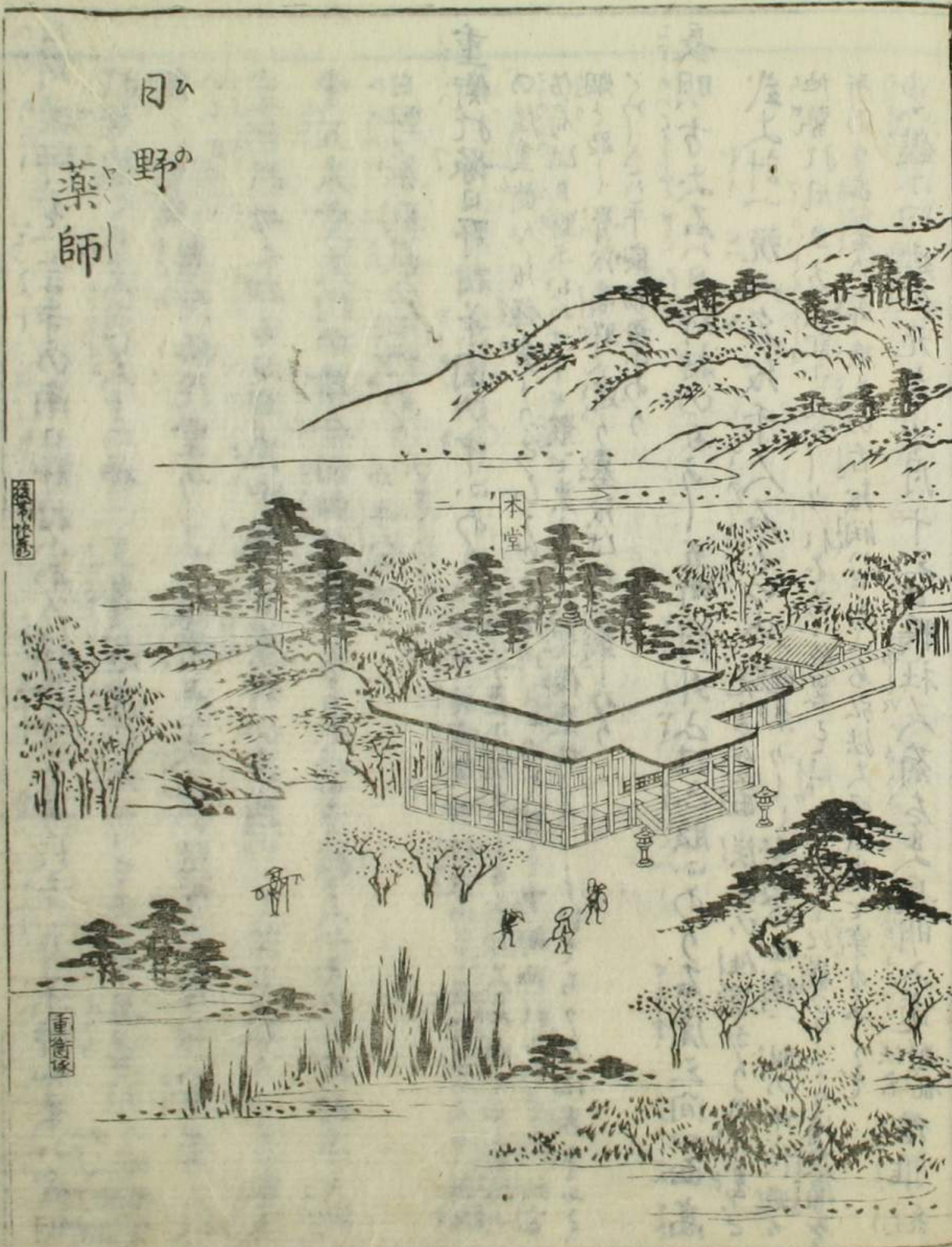
心本うろがのたきや
おれぬ村雨
おれぬ笠原のふ

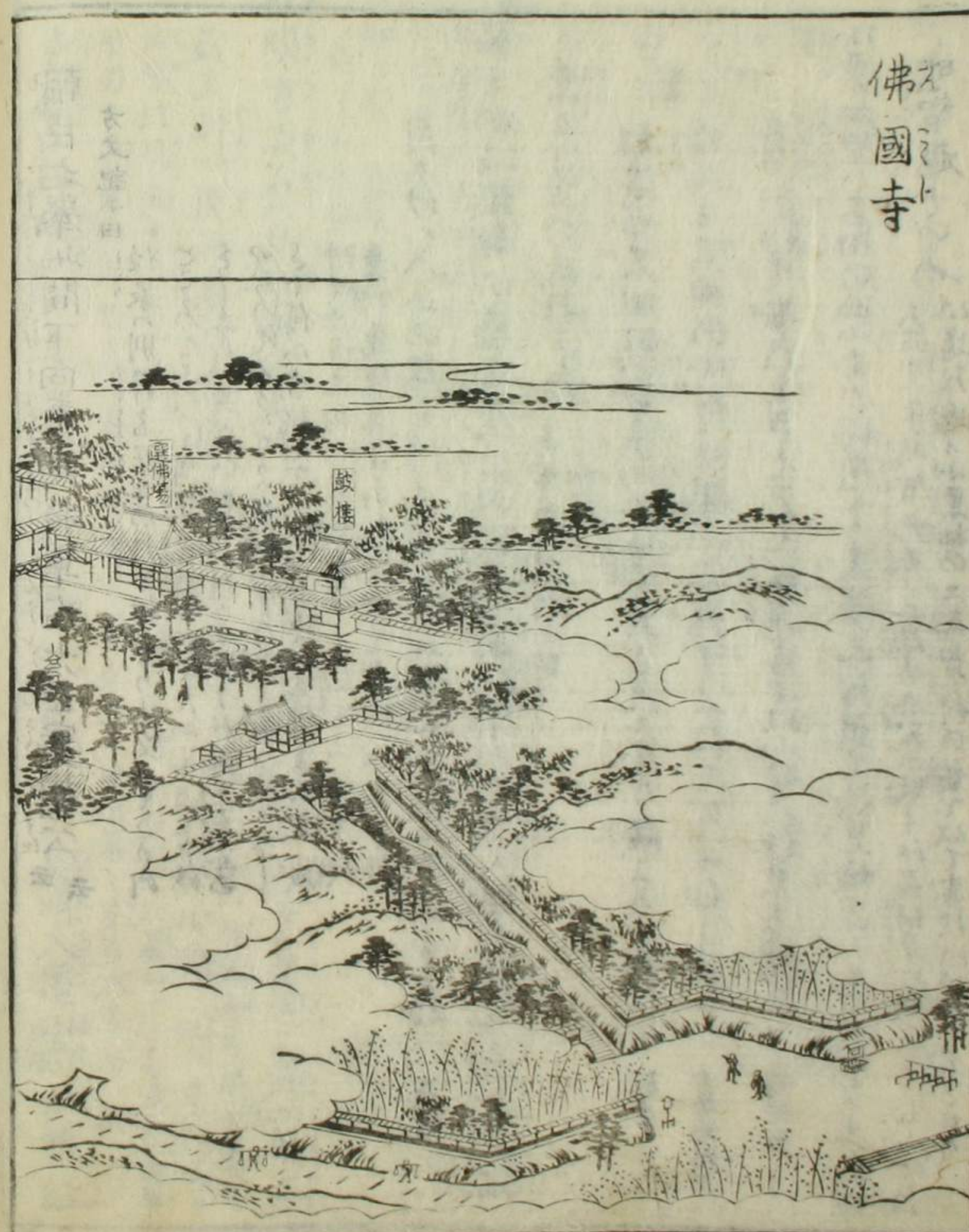
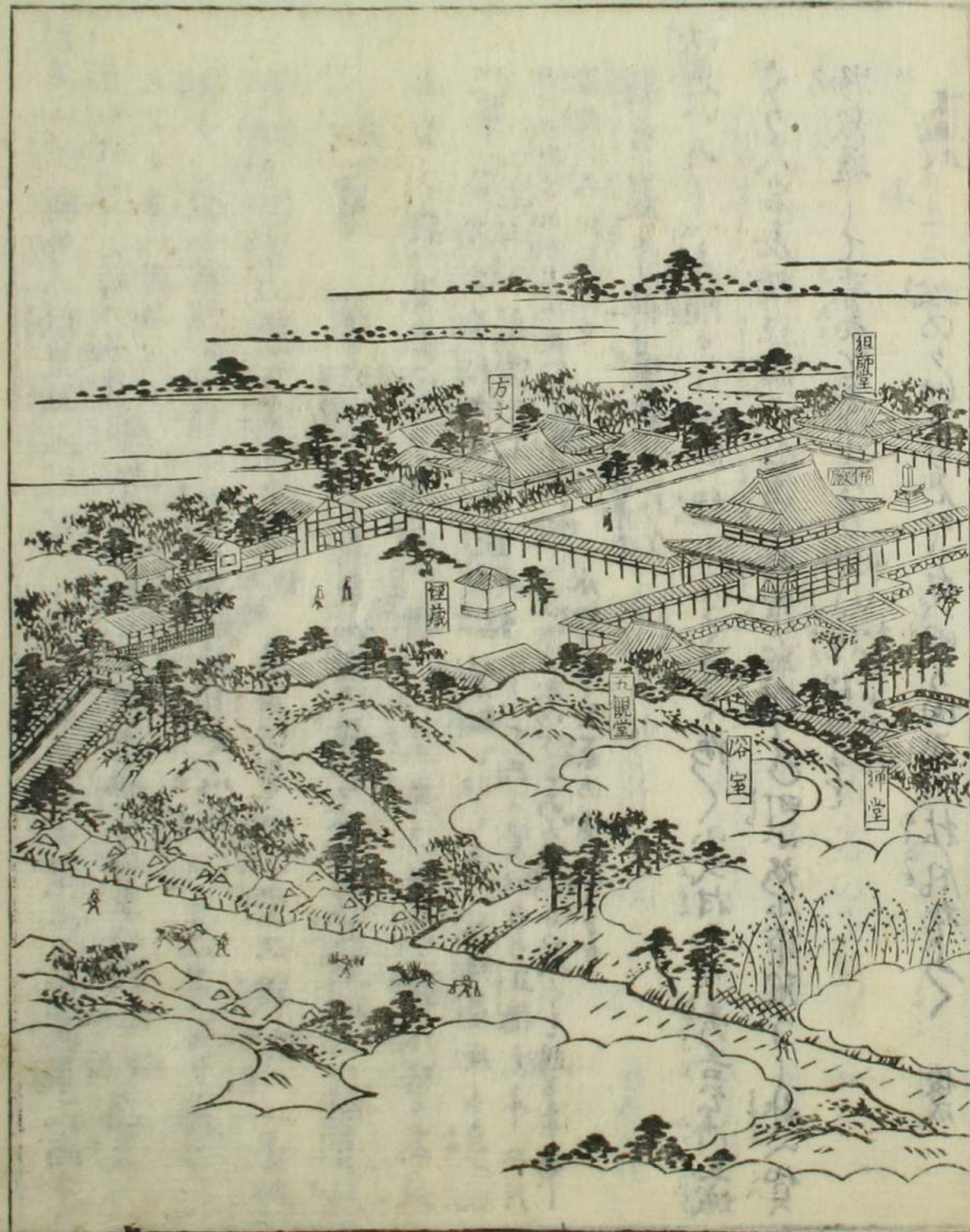
西行
賴基

坐忘の心寂たのみーいもく時念神を以て我れ

賴基

日野の薬師





大明福刻の人なり承應
二年日本へ渡海に
佛殿の本尊を釋迦佛と安坐に額
明^{晋亮}殿高泉乃

額佛選即非の寺之食堂の額五観高泉の寺開山堂の額無盡一乘院

安曇寺 額 高泉の寺 南の門 額 天王山 本庵の寺 柱に聯 衣掛 高泉

九月廿日按政太政大臣位從一位
家熙公より成記を
金涌水
石のくさ松の下よりあり早くとくも竭るまき
水軽くして薬の湯小可なり

見いみへを隔々々々野徑よりくどくへく小民村あり秀吉を済ませ城

物類通して交易をせしむる
故人を分るゝ縁に

五三

道々人給ぬ異件は婦人の黒の香の下お
有家

新燒古
野
里
新

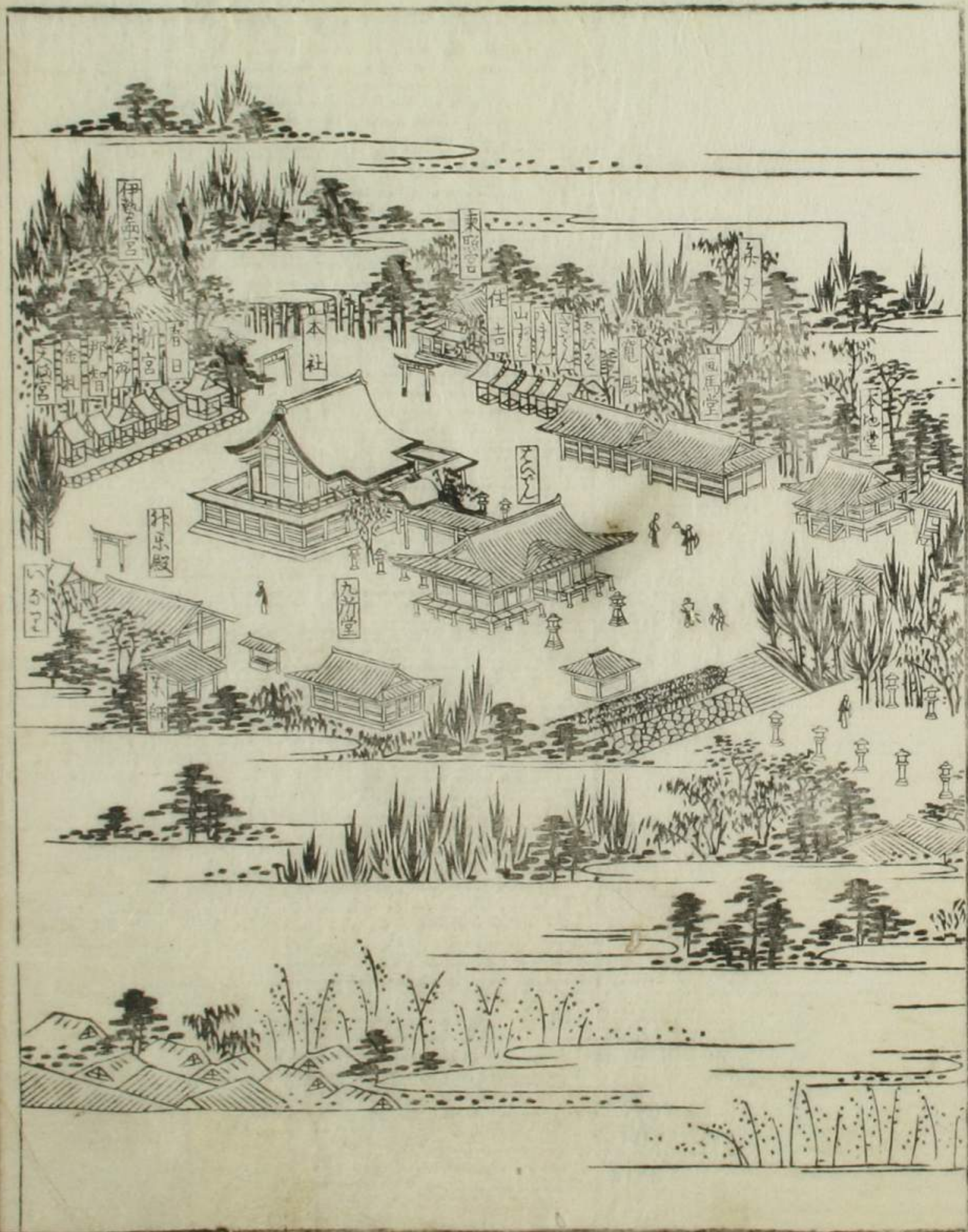
王業
黒井くろいは、この田井のりは、よい思おもふとてやむの人
あへちるゝものか、大にたふさぐものか、
後人考に

文政三年秀吉公伏見城と築き其後慶長五年石田が逞れは滅ぶ今ハ山丘西行

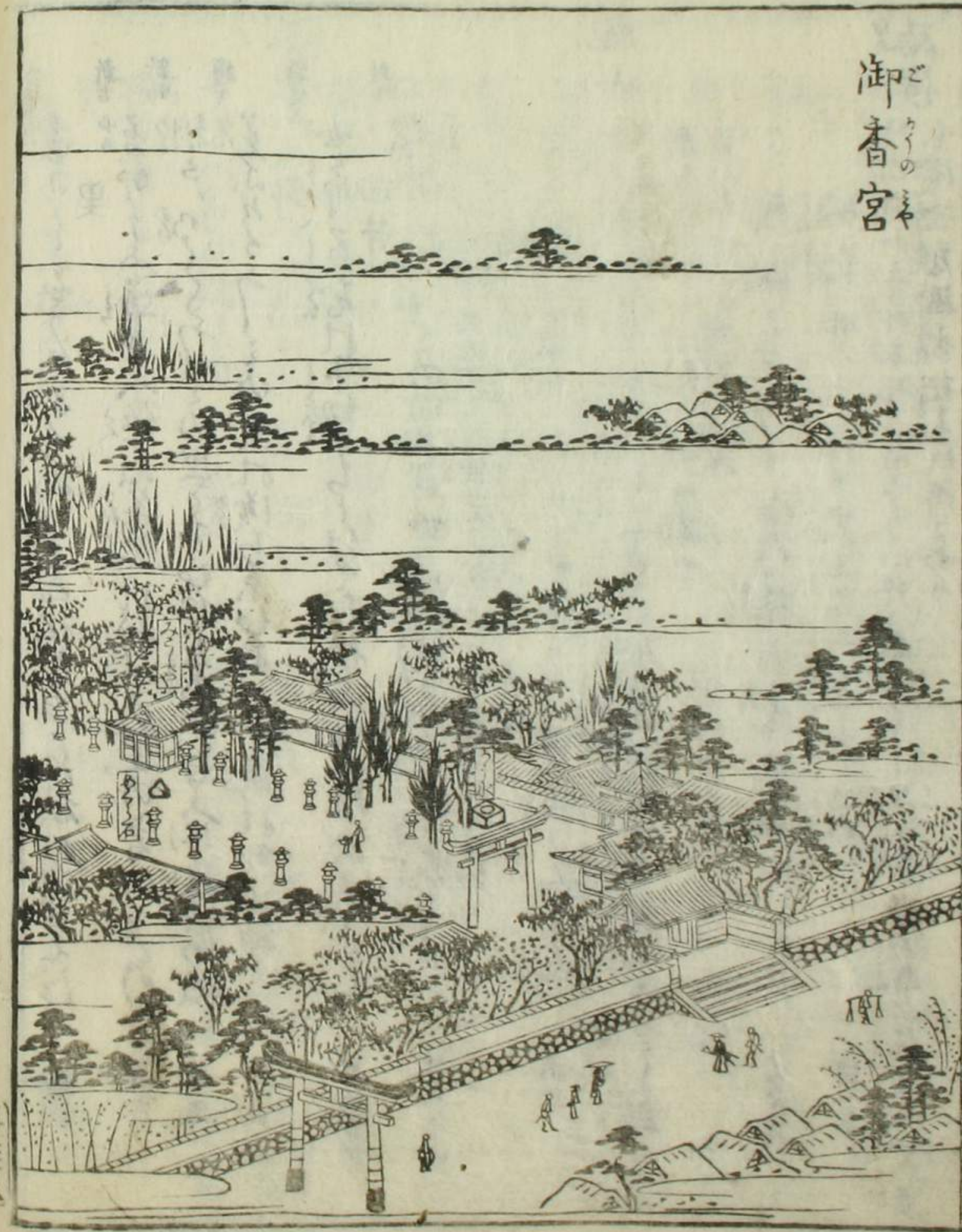
ちれを伏見の橋をくぐり

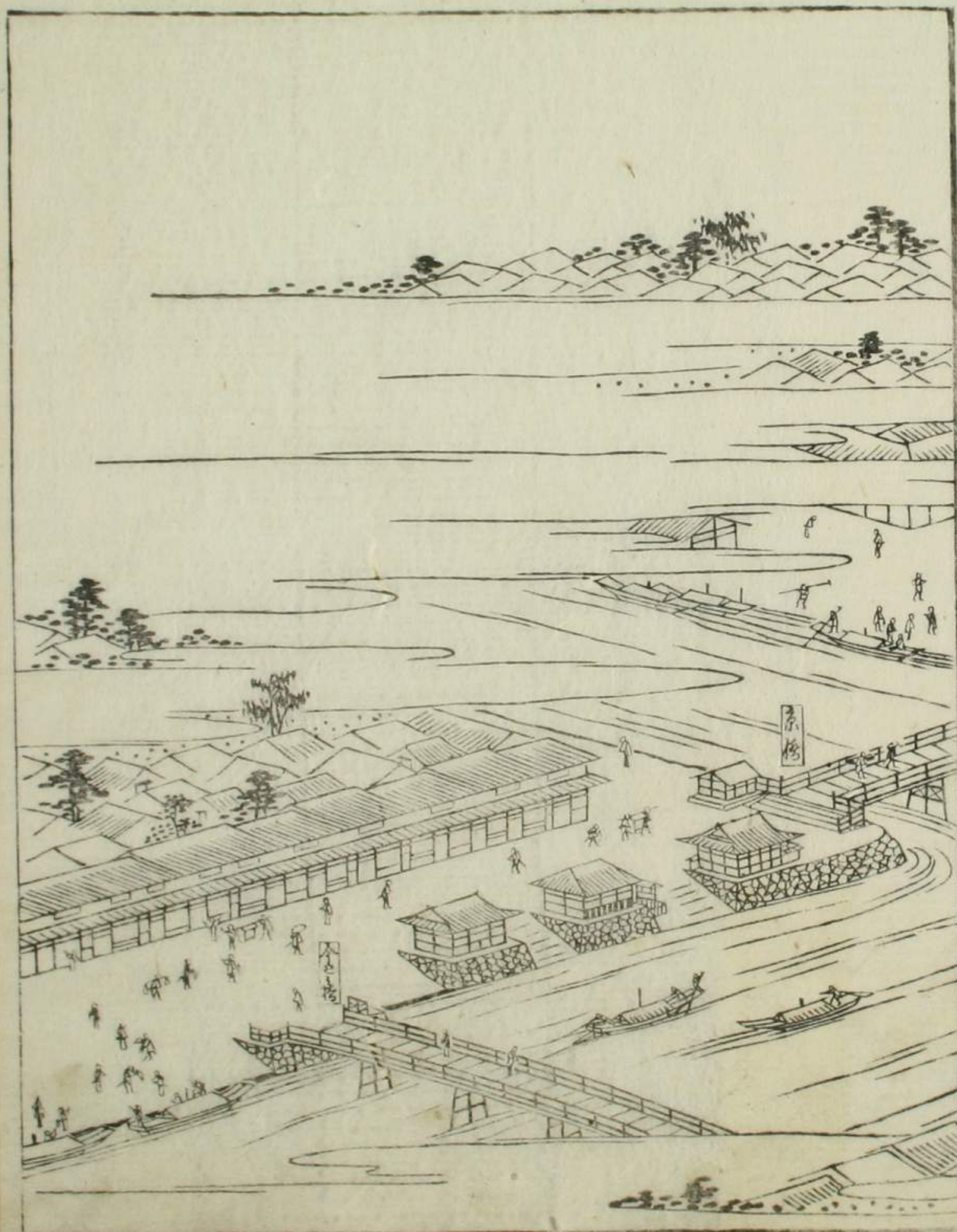
城しろの五ご郎ろうを町まちの菊きくをうけ持もて梅うめ花はな多おほくし早はや妻つまの以も花はな魁かいの清せい香かう依より賞しょう美び

と清淨なる福を親身に所あり

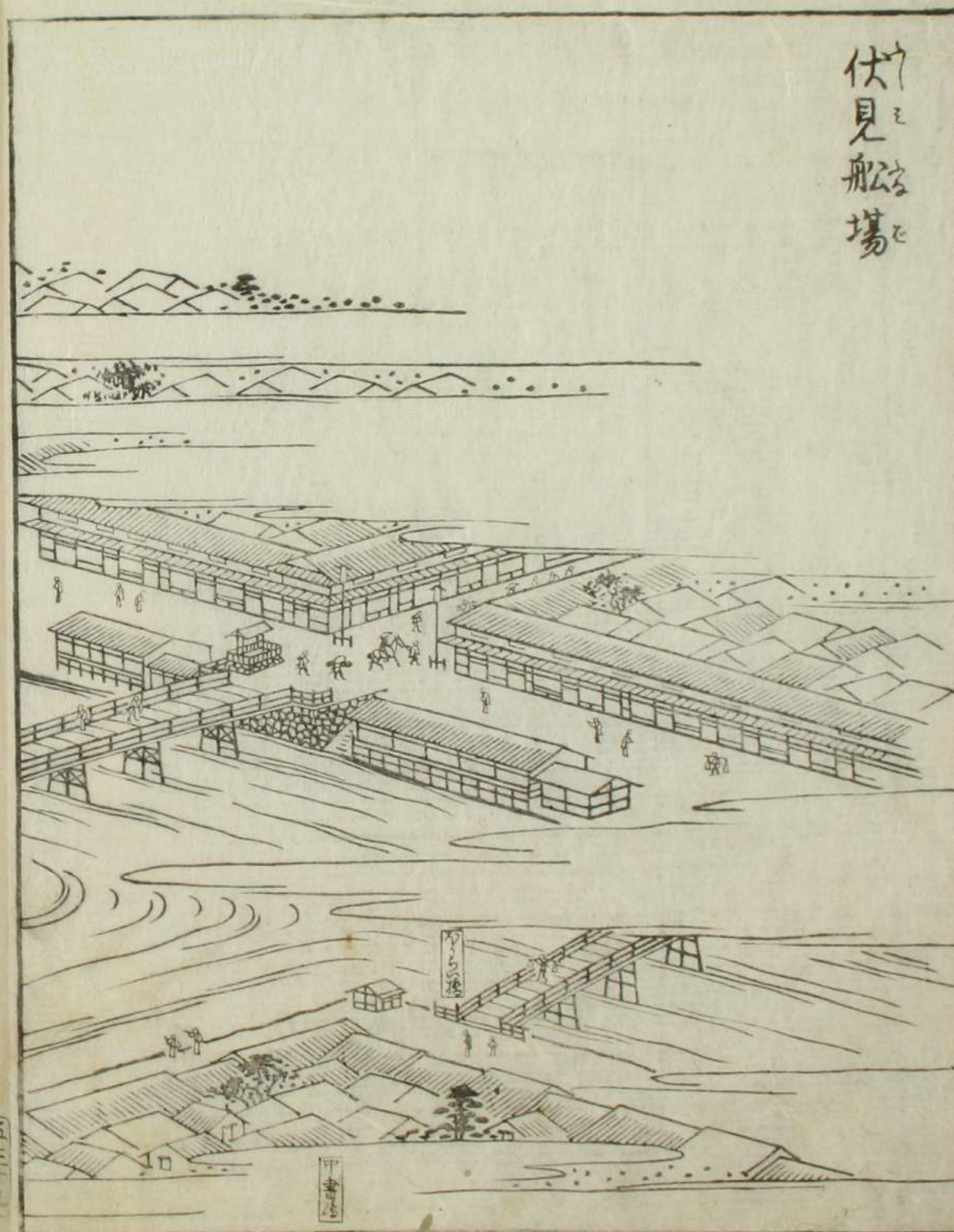


御
香
宮



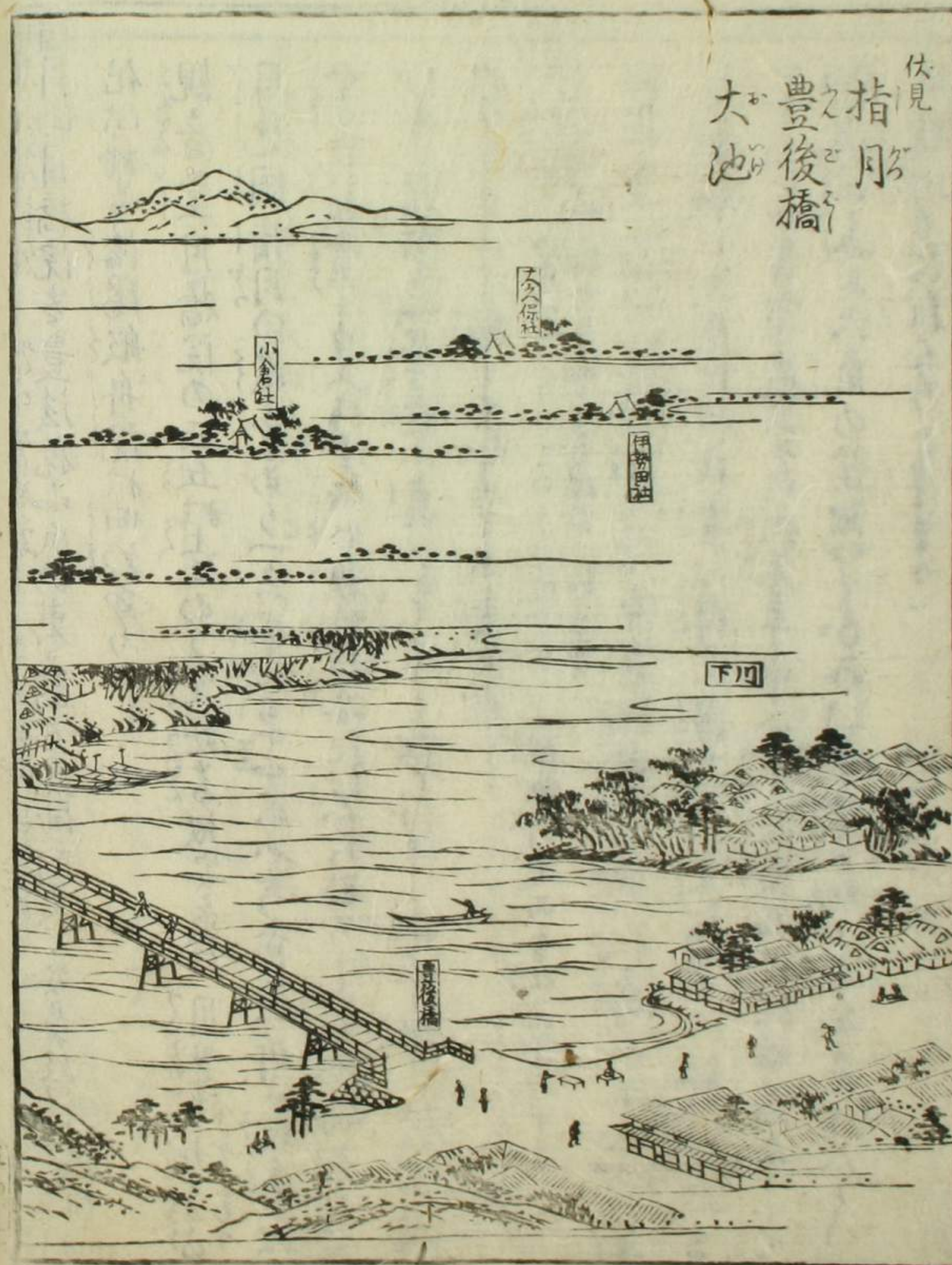


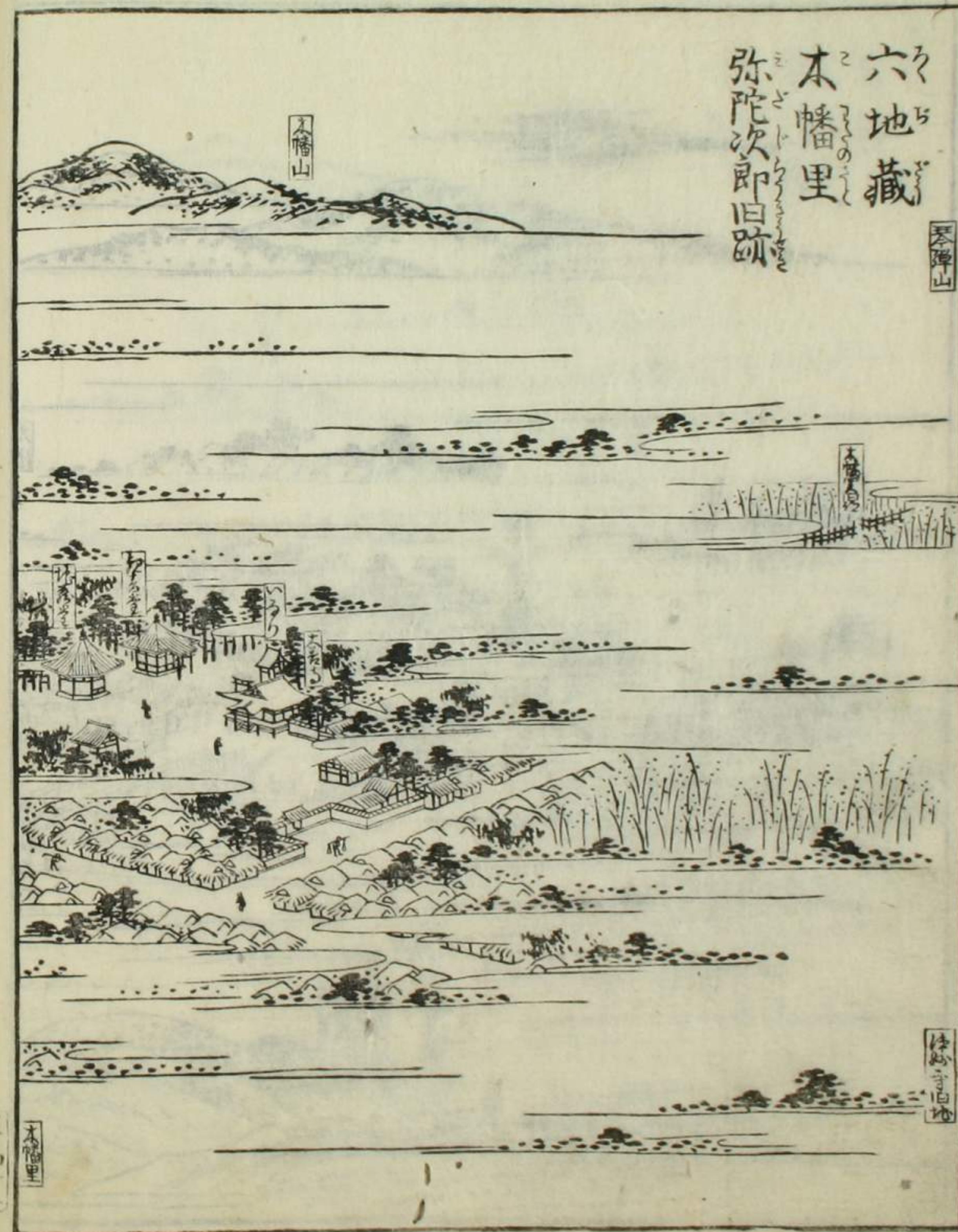
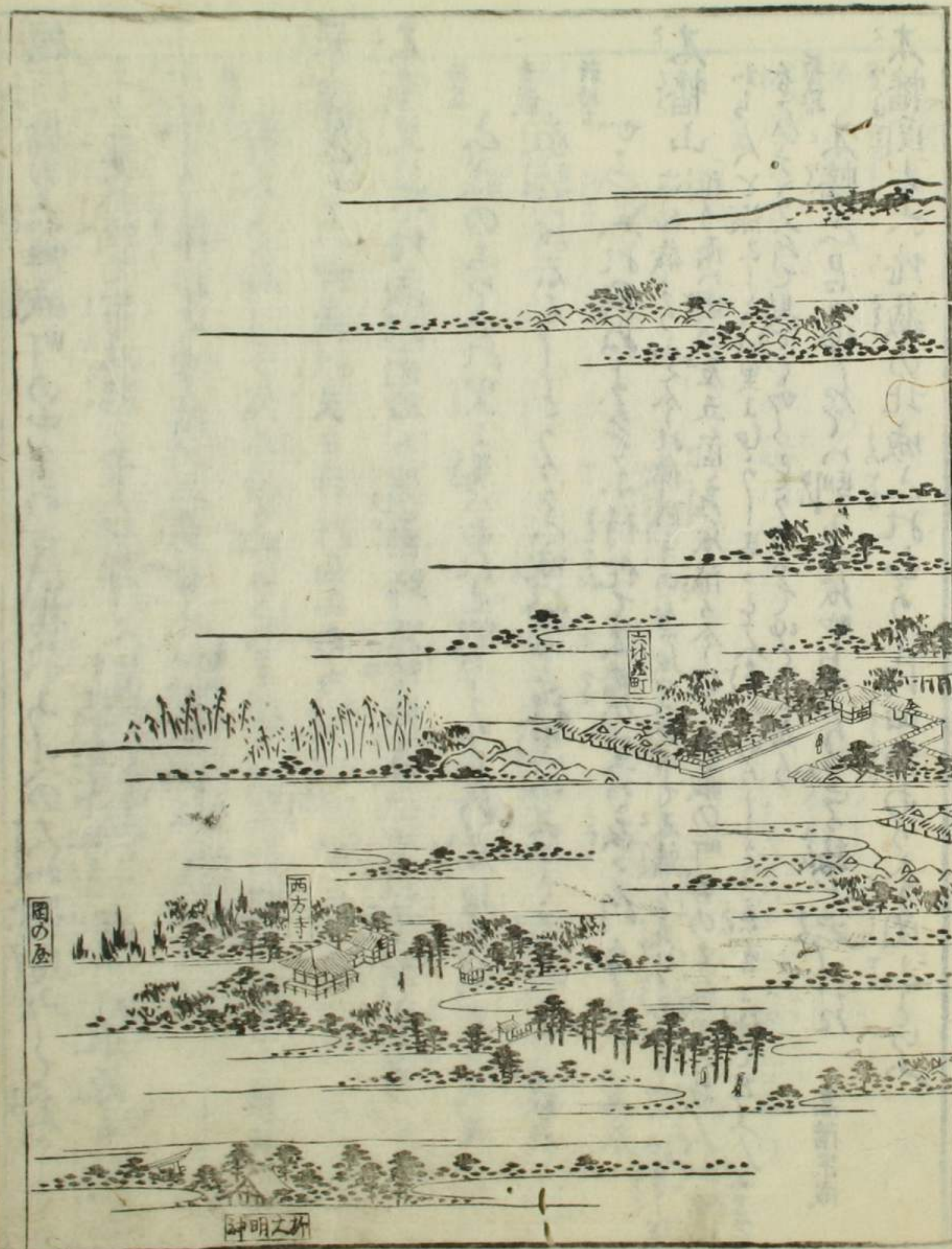
伏見
船場



香宮を城の西なり本社に神功皇后なるいはし鎮坐せり元
歴詳め文禄年中伏見の城といふ所なり一海谷の東
ふりたるふ神崇はしくたれど入は旧地遷坐あり
九所堂初と九坐の神とあり神輿も九基あり清水鳥井は清い
水よりて名に賽石鳥居の因なるの同あり詣人より實に
所あり世人のる拜殿南の門伏見の城中あり一海谷の東
東橋のかゝり大坂より海と登舟着る夜は舟益のふりて都に
通高瀬舟宇治川より舟もどくそりてついで川辺に家あり旅
をせし驚忽ち舟出でて饗應するとい所の風儀なり
巨掠れ入は豊後橋の南向より眺る水面あり土人の余の中入和街
ありて五十町あり名蓮花河骨生けて炎暑と遊のなり
十首 抄くく入は江の月れり又光れりて堂とぬあり 鳥尹
巨掠れや海を入江の南小金里にあり春日明神とあり里の氏計あり
九月十日

指月山月橋院を豊後橋小川の東あり毘沙門天と安堂に法師
化け地を洛陽般舟院に旧あり
観音堂月橋院の西丘に上りあり聖観音安堂に月見池
月見園指月の後よりあり一名宇治見より秀吉公の所と櫻臺殿
堂で月夜賞する人より姑蘇城に宴たけかりたりも鷓鴣飛んで
ひりて然る銅雀臺小舞臺とて一も雨をけりて今淋け地を月
ねとひかりく照してむり小舞臺なり
六地藏 指月の東八町よりあり所のなり醍醐街道西を伏見淀中
地藏堂 入る寺と号し淨土あり本尊地藏菩薩に仁壽二年小野皇
眞土と題し生身れ地藏尊に拜し獲て後一本取て六躰れ地藏
とてこの當寺と安堂に保元年中小平清盛西光法師に命じて
都に八口毎に六角の堂なりかみけ尊像と配して安堂に今乃
地藏巡りありなりとまる





五ヶ庄を経て宇治橋ふもとに
今けし倉堤の往直
新吉公の時造る
 横川北水源を北に横

都也しや
名義詳
つていふ

拾遺
成力^{なり}た^り九里^{くわりの}
馬^{うま}、わしと^と行^いく^るは^は羅^ら及^{およ}び^ひ人丸

新續古
から人仕同ぬよきふ待侘て本幡の里へ衣より有り
為家

から人と泳ぎにけり馬はひと馬々を人多くありしより哀れにゆてと人の心を
なほよくくみて馬ともゆきどくちめてゆくをなり

本幡屋を六ヶ所、藤の土城と云ふ。レ旧所、今屋と云ふ。

月神こころうた 本番里こころうた 天恩あまのこころ 尊成うんじやう 公こう 里り の 存ぞん 補ほ 了りやう

屋を本番の西之宇治川のむぐりて我すちの町道所
 例系九月十六日

生本
日今れ東國の屋をを好むれゆへに
瀬川せがわのより 廣人志次

長明ノ丈詔曰義経の白旗の角とよそふ船ふを巻の原に舟次
きて是て満洲弥々^{ミチカ}船^{フネ}の舟^{フナ}の角^{ツノ}とよそふ船^{フネ}の舟^{フナ}
のをせし原より源が集れきりて取らん

西方寺弥陀次席に旧後五箇座あり本尊阿弥陀佛に金銅の立像之真本は

知原山當國院の在りし所口義比府より僧人あり養業の類なりてふ
 して耶見奴逸れまゝとあり府頭院の僧人門下立悪次郎焼鉄衣の傍の

額ひくい當あてて追放おしなげに僧そう少すくなくも怒色いかでかをもつて降くだろふ次第しだい怪あやしむ暮くより西山にしやま雲くもは舞まひ

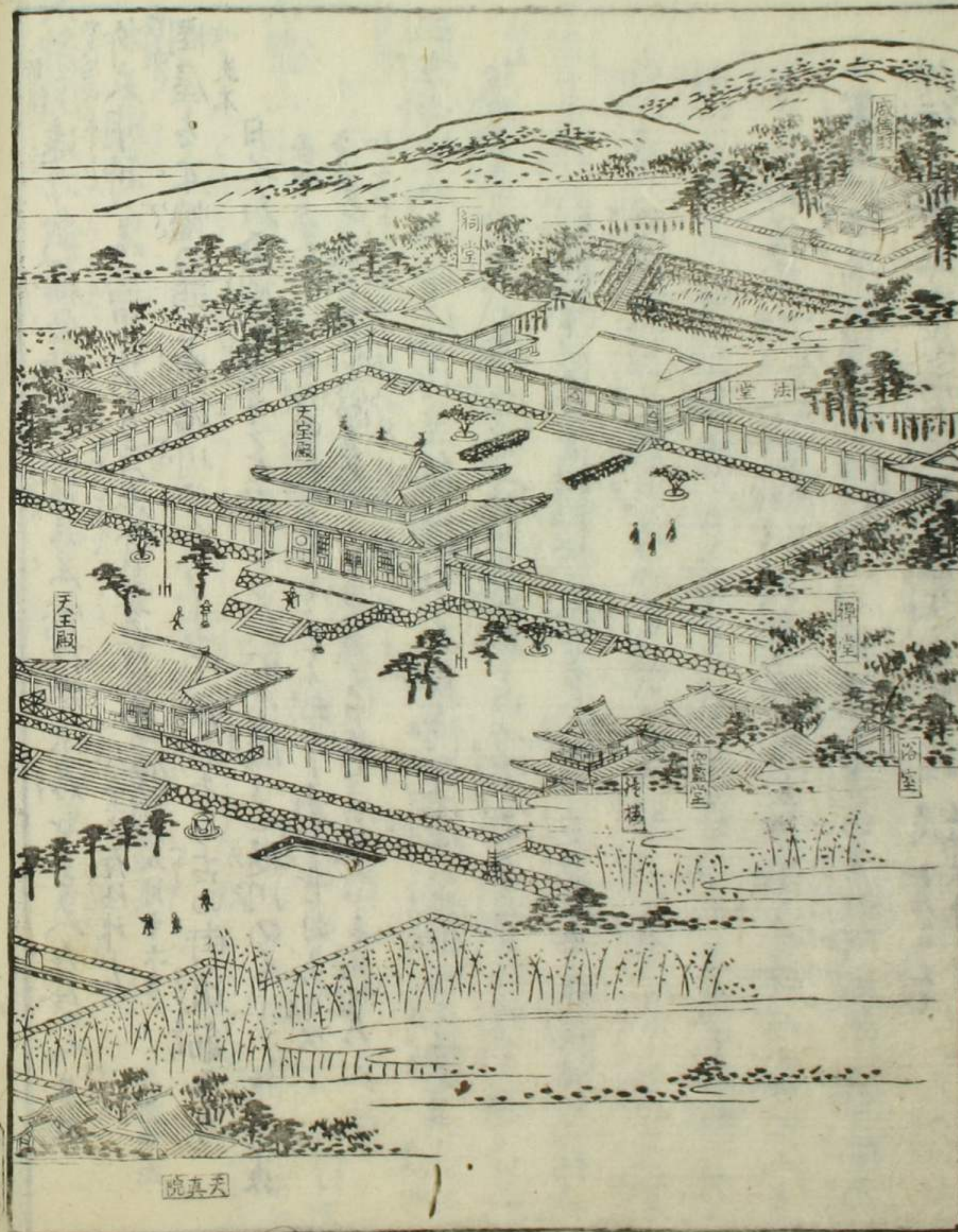
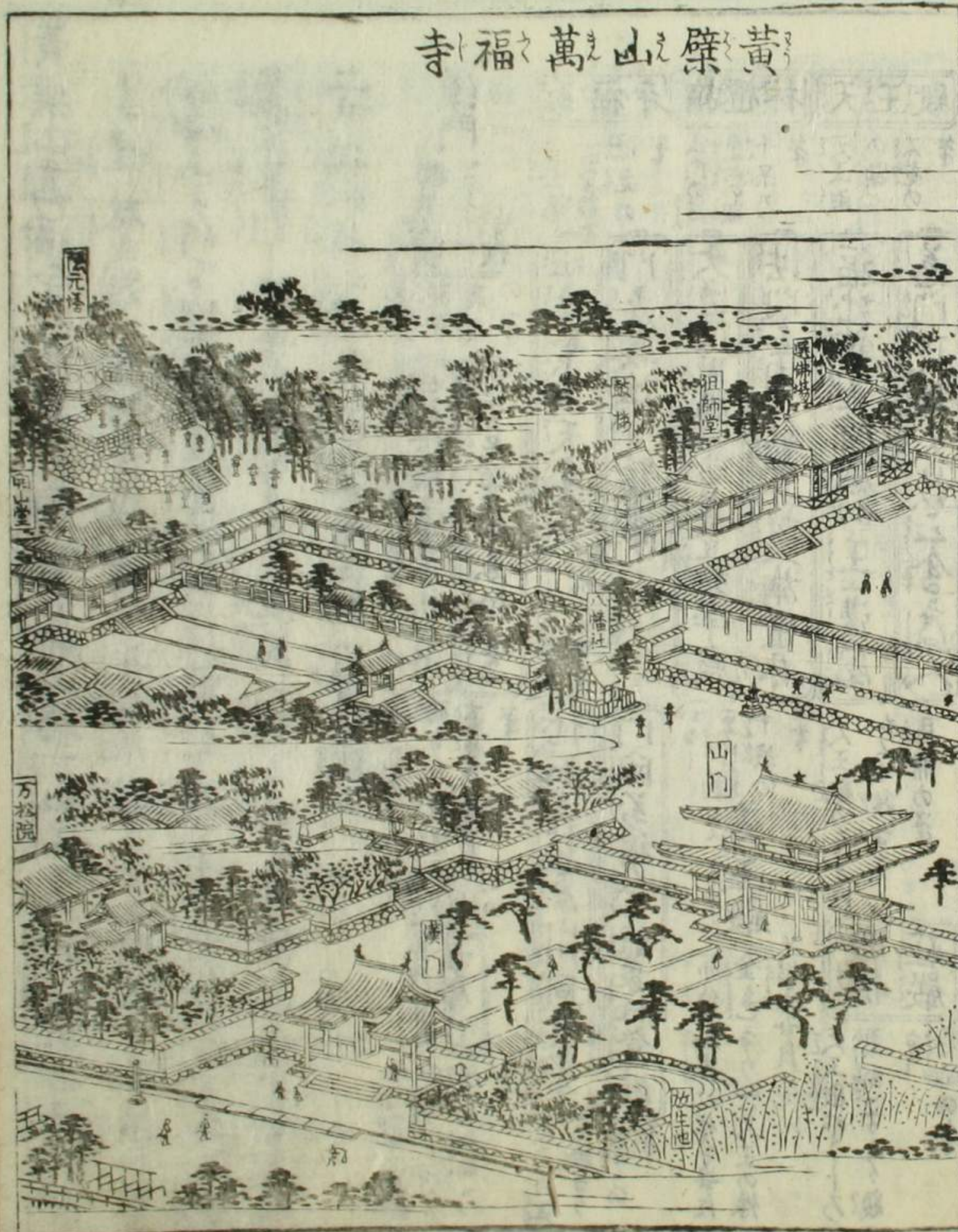
明寺にて及に堂内に釋迦の像とありに額は焼鉢陀火印あり次扉忽懺悔の心と

小紫金に佛係紙滑りあつらひ 當寺の本々 眞後當寺の常照阿闍梨と共に佛乃

修行し遂に二人も同日同所を往生しぬ
世人 惡縁を名て
殊に此所より

五四三

黃檗山萬福寺



黃檗山萬福寺五箇庄北南あり用山隱元和尚大明福州福清の人ふ
一七姓林氏諱隆琦字隱元あり本朝承應三年小東渡一萬治二年
公命ふりて山城國宇治郡大和田勝地と賜實文元年九月より依
藍衣草創一精舎凡經營多し異風を摸一各々黃檗といふ十三年月
二日後水尾上皇より大光普照國師の號を賜ふ

漢門

義一

宗經海道重快廓
聖主賢臣忠仰る

山門

黃檗山

我

祖席繁興天廣大

此

此

福

門庭顯煥日精華

門

門

林

法門内外觀身投入檀檀林

天王殿

天王殿

天

福地鍾靈特感四王護衛

天王殿

天王殿

殿王

急門現瑞大秋之舍度人

莊嚴

莊嚴

首冠兜鍪金威應三洲功

大雄寶殿

大雄寶殿

尊德

紅牡丹山長生之画

威德殿

法堂

捧唱交馳國師千古猶生

威德殿

威德殿

仁明昭日月

山河

祖師堂

祖師堂

威德鎮四河

正氣

祖師堂

祖師堂

佛

加藍堂

加藍堂

加藍堂

堂

通

通

通

開山堂

舍利殿

舍利殿

舍利殿

堂

堂

堂

堂

堂

堂

堂

堂

堂

堂

堂

堂

堂

堂

堂

堂

華嚴室 釈迦佛の安寝の所 節竿旗 大雄室の旗 松園 當分の妙高峰 妙高峰 華嚴山の峰

明星山三室戸寺と其の南大鳳寺のむろあり奉尊千の観あり圓浮

檀金に立像あり長寸式分之宇治山の東岩割れ水屋より出現のれ所

光仁天皇の御本願して智證大師の開基之中興隆明法師

宇治山と三室戸山の南之喜撰法師は所小住あり

宇治山に紅葉とては長月の日のもとをあらはし

喜撰嶽を三室戸より一里ぐり異りて横川村のふもとありて岩岨

ありてわれ喜撰洞といひ此の境より喜撰法師を奉じて登天

の山ありて三室戸のむろに余所より山中へ入て宇治山の在撰の境より

の山ありて三室戸の境より三室戸の境より三室戸の境より

秋の月夜より三室戸の境より三室戸の境より三室戸の境より

三室戸寺



都の異字拾れ里
茶れ名をうへ
高貴れ調進系毎
の例ありて製法他
境ふねくびね
ふねくびねの花
咲そむる茶摘
とてけ里のあけ
の女ねるも我
つた赤た前
され腰ふ籠
して茶園ふ入り
聲あけくを
ひるるあ流して
奥にうあるさ
陸羽の茶煙み
書遺一ゆり



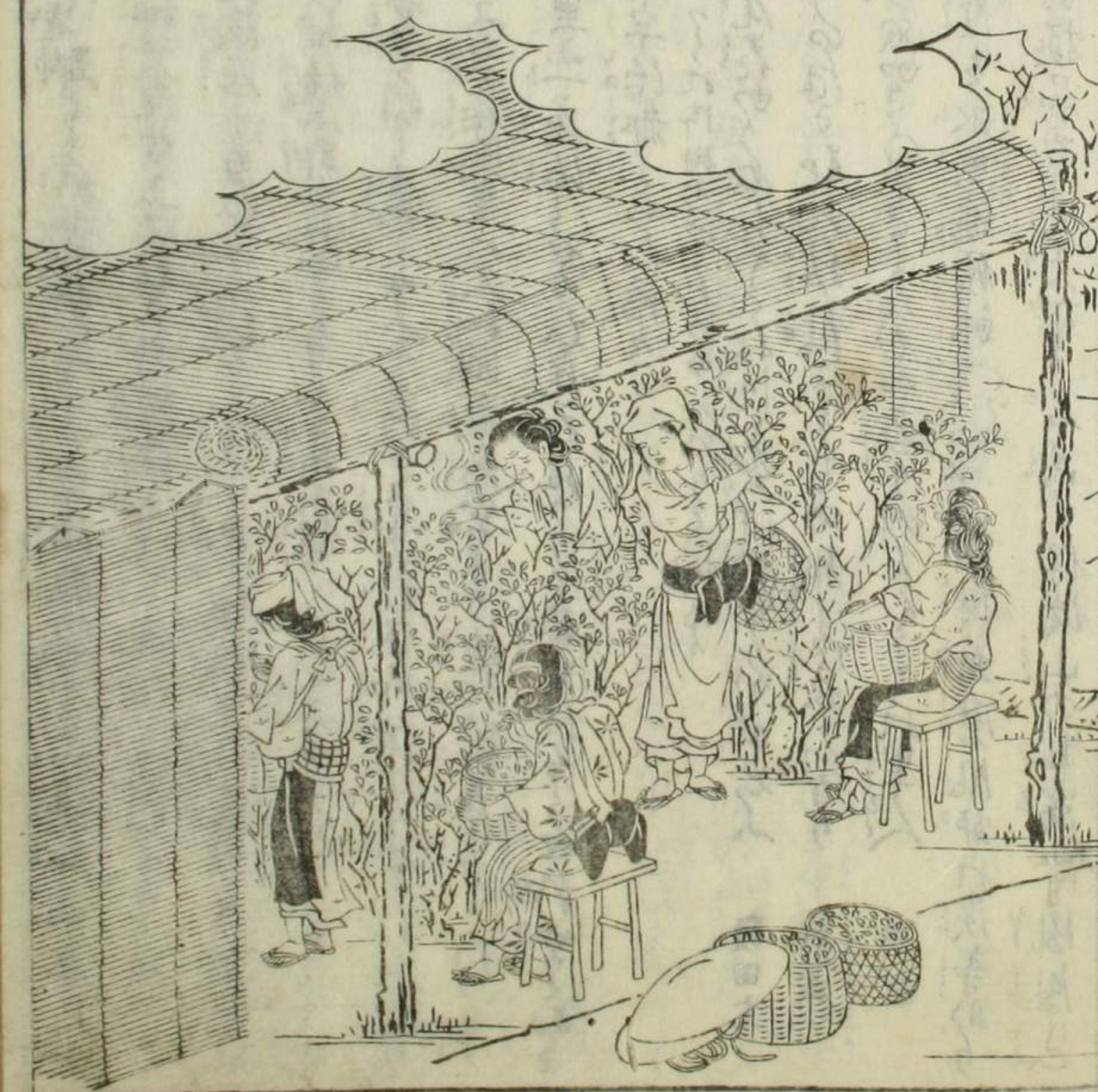
本わくわく

茶摘も

きくや

子規

とて



千載せんざい
胡調こてう宇治うぢ北川きたがわ秀絶しゅうたつくゝ願ねがひれりるせけれろ本
新古今

新古今
芳々切雲の襟もあはれ
祢もあはれ
地もあはれ
花もあはれ

寂蓮

融大匠は地は別荘あり河原を敷き裁みよりるげに

 ままのせ
 とそのと
 このち
 ぶさう
 うはき
 やま
 うへ
 ちをん

續古

鑲舌 こま
花の色いろの押おれぬ水みづより花はなの雪ゆきの下したも白しろきちの海うみ長なが

定家

新拾

ちりそめやましろの款冬せの原やしろのまねやしろ花やしろまねやしろうらたれやしろ海やしろ長やしろ

西園寺相國

橘小嶋崎之宇治橋此川下式町ふあり之

平家おぼろふ曰平等院の良橋の小橋を荷く
武者二騎引くく生来り騎へ握系係を喜

季一騎ハ佐々木四郎高綱より目^めの^め何^{なん}も^も生^なぐさ^さり^りた^たれ^れど^ど肉^{にく}々^々先^{まづ}は^は公^{こう}旅^{りょ}け^けつ^つら^らん^ん掘^ほる^る
佐々木二段むうり^りを^を進^{しん}ん^んぐ^ぐ佐々木如何^{いか}掘^ほる^る迄^{いた}け^け何^{なん}の^の西^{さい}國^{こく}一^{いつ}の^の大^{だい}河^がを^をや^や腹^{はら}を^を穿^くて^てい^いく^くま^ま
縮^{ちぢ}め^めて^てい^いく^くた^たれ^れを^を掘^ほる^るも^もあ^あら^らん^んく^くや^やら^らん^んも^も掘^ほる^る
馬^{うま}に^にゆ^ゆく^くに^に捨^すた^たる^るの^の邊^へを^を踏^ふ遠^{とほ}く^く腹^{はら}を^を解^とけ^けて^て縮^{ちぢ}こ^こう^う々^々
後^ごに^にい^いく^くま^まあ^あら^らん^んく^くや^やら^らん^んも^も掘^ほる^る
光^{ひかり}後^ご

光復

日

の香を^{かほ}ぞめらん橘の小満^{たちばな}みよせ^{よそ}に佐束のうね舟^{ふね}

右上天皇

源氏物語

兵部にの宮宇治よりて海よりおちきく人の家西阿原の宮城のそとて
ういへた舟よりぬく舟供の人をまわらん櫓の小舟とて舟に

45
30
} .

そめぬふれ足ふへくをもふに華のよき辰とも言ひて吾が卿
ふしも忘れんわづらひに流るるはなちたるさき後

三

女もあぐさるのやうにしてあけまのえ

橘

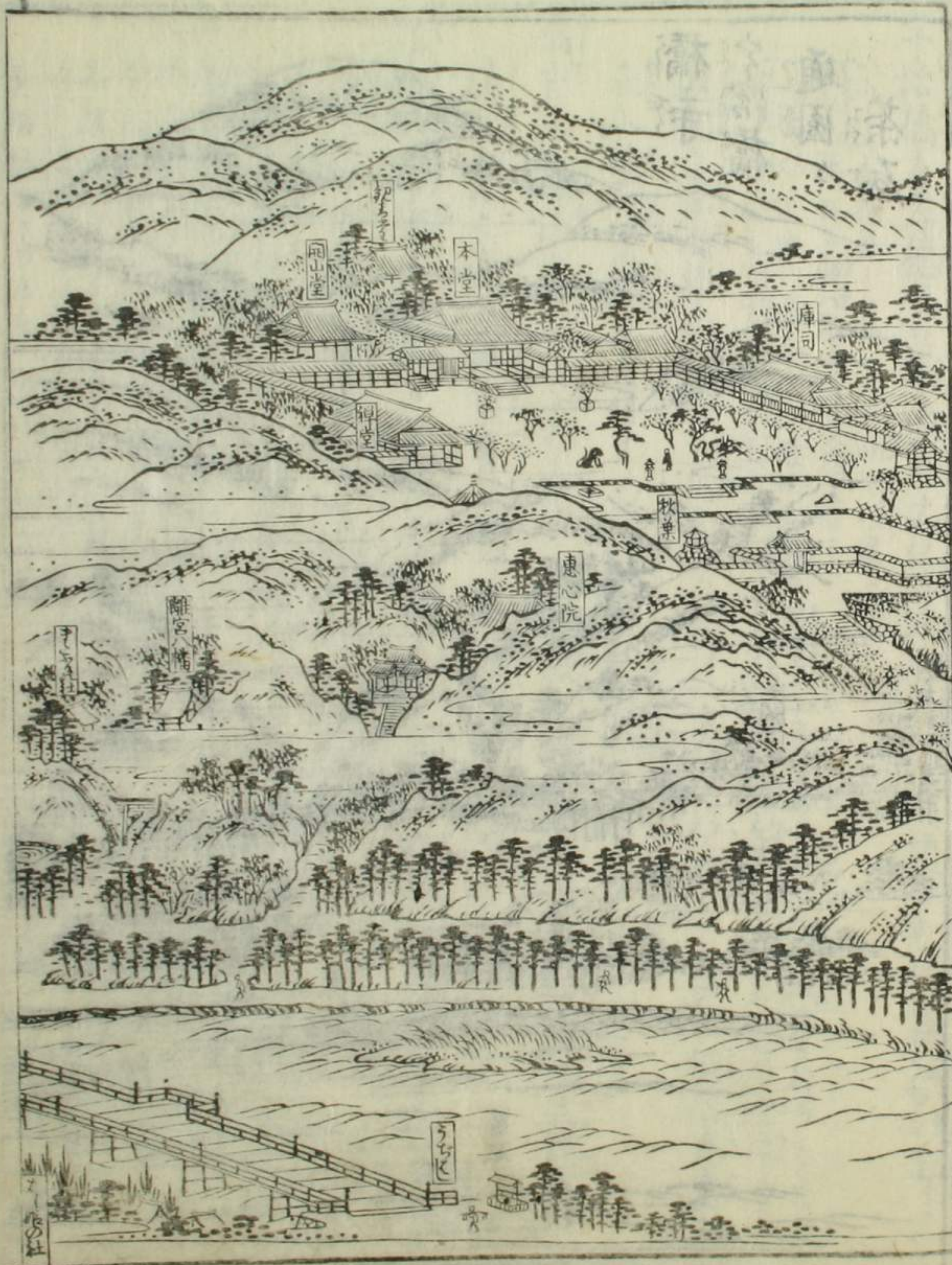
のうへにのふりかへりてふと終まるゝとぬ

宇治川



丸山

平文論
以所也





宇治橋を孝徳天皇の御宇大化二年に元興寺に道昭和尚が橋を架け初

いふに橋は西より西より明衡往來に東に望み

橋小橋西より西より明衡往來に東に望み

三間水 城の名水なり橋下の龍宮より涌き出所へ流るなりと云

通圓茶屋橋のむづいふわりのいふよりゆきのふふふ調て茶名

南入茶店又通源が像あり

橋寺と通源をむづいふわりの常光寺放生院と号し本尊地藏菩薩開基

道昭和尚之具後興聖菩薩をわて橋供養あり

宮八幡宮と橋寺の南ふわりの神坐して上の社に應神天皇仁徳天皇

下の社に免道の尊厳崇ま

神社を當社のゆゑあり離宮に橋あり

當社の外に氏神平忠文が靈ありと云つり則ち地忠文が

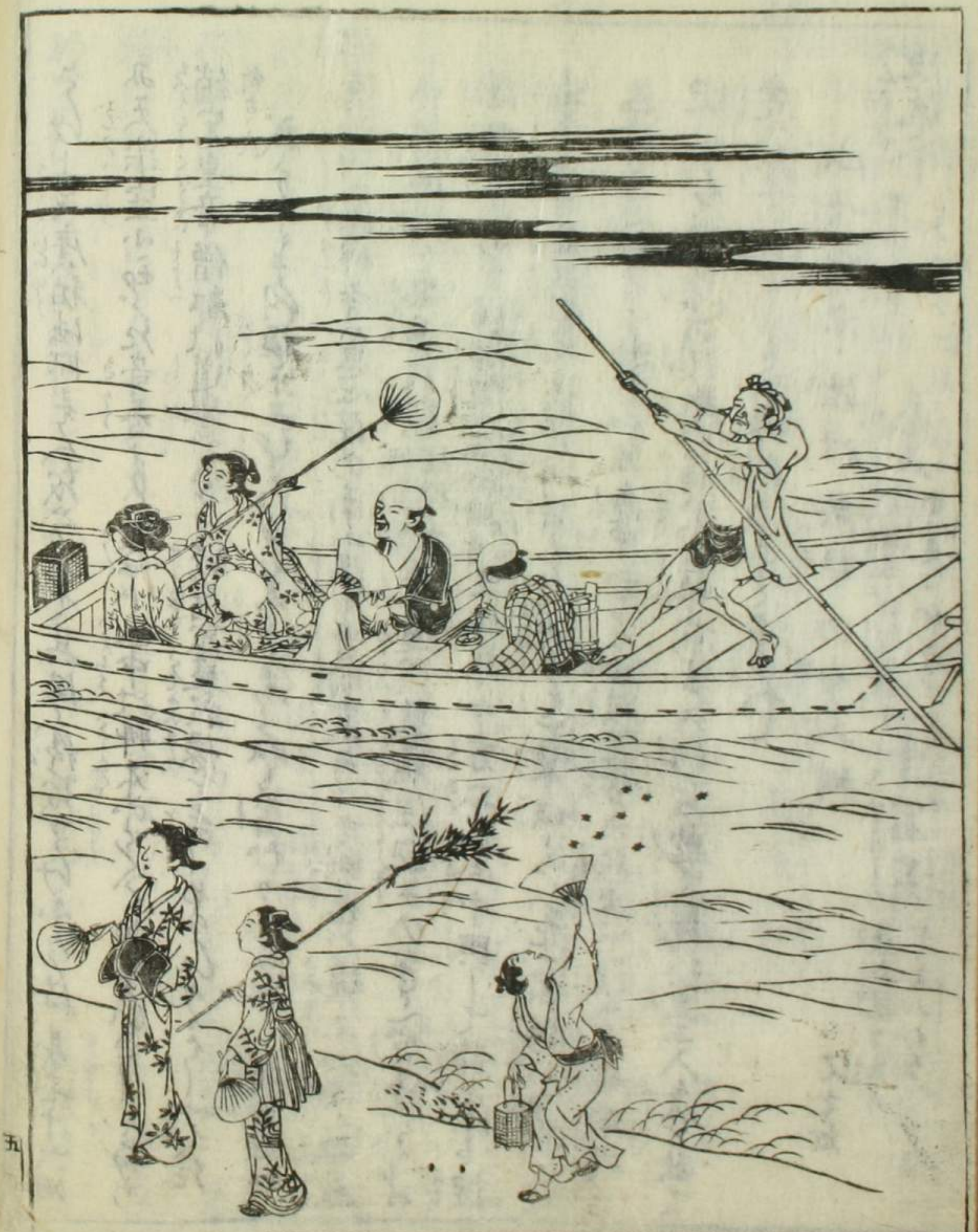
宇治平二年三月平將門征伐に

ゆへに將門退却せしふより勅賞のさへありと云ふ

るにぬけりてと云ふに九條右大臣實朝を宮中より刑乃

りて賞のさへありと云ふに九條右大臣實朝を宮中より刑乃

具ははるりたり 忠文をさへありと云ふに九條右大臣實朝を宮中より刑乃



植嶋

宇治橋より乾八町をりふあり

宇治橋より豊後橋まで凡五十町の堀あり
おの植嶋といふい同く植嶋といふ上は下は

等の武村あり上は宇治より英傑一の
舟よりあるを渡すといふ

金葉

宇治河の川流もよめ夕暮の舟人舟よりふあり

基光

舟人

いれれ夜をの衣うちきき月あをうに枯乃枯人

為道

橋姫

や一橋の宇治橋の西は光あり

今應永三社あり一社を清水のうへに源流を
今應永三社あり

末

さむい海ふ夜やうくあふいとわかれきり人より枯姫

漢金

此の評説よりて多神とある中おまは吉太の神橋姫の神ふかし
詠のふありとて清浦れ流みへふふの神を橋ふ橋の神を佐保姫神

田姫ふとい旧妻に橋姫ふといとて一系禪園の清流み離宮の神夜
毎通ひぬくとて曉海あびとて一橋のうへに光ありとて人玄恵法師の目む

嵯峨天皇の清れおとて神ふある女貴妃のや流七夜世の時きりといふ
に流は髪をきりて悪鬼と化されとて橋姫といふとて宗祇の説きとてい

かきとて妻とていふとて悪鬼と化されとて橋姫といふとて宗祇の説きとてい
かきとて妻とていふとて悪鬼と化されとて橋姫といふとて宗祇の説きとてい

かきとて妻とていふとて悪鬼と化されとて橋姫といふとて宗祇の説きとてい
かきとて妻とていふとて悪鬼と化されとて橋姫といふとて宗祇の説きとてい

かきとて妻とていふとて悪鬼と化されとて橋姫といふとて宗祇の説きとてい
かきとて妻とていふとて悪鬼と化されとて橋姫といふとて宗祇の説きとてい

五五

よとてつこちつる儀あり又源氏物語に橋姫をあらはするをいふとて
那ういふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

遙院殿の清流も清浦宗祇のいふ所は一佐保姫龍田姫橋姫といふとて
とつて流れ口授のあらうとて道の師ふといふとていふとていふとていふとて

わが流本といふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
橋姫といふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

浮舟橋を橋より武町より川上へ
弘安九年興聖菩薩橋無常のうへに高さ五十六三重
の石塔ありとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

鷗飼願も浮舟橋より武町より南といふ
うとい舟をいふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

植尾ふとて橋より南より北よりつとて
土人丸山

まきとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
あきとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

あきとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
あきとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

あきとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
あきとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

あきとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
あきとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

あきとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
あきとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

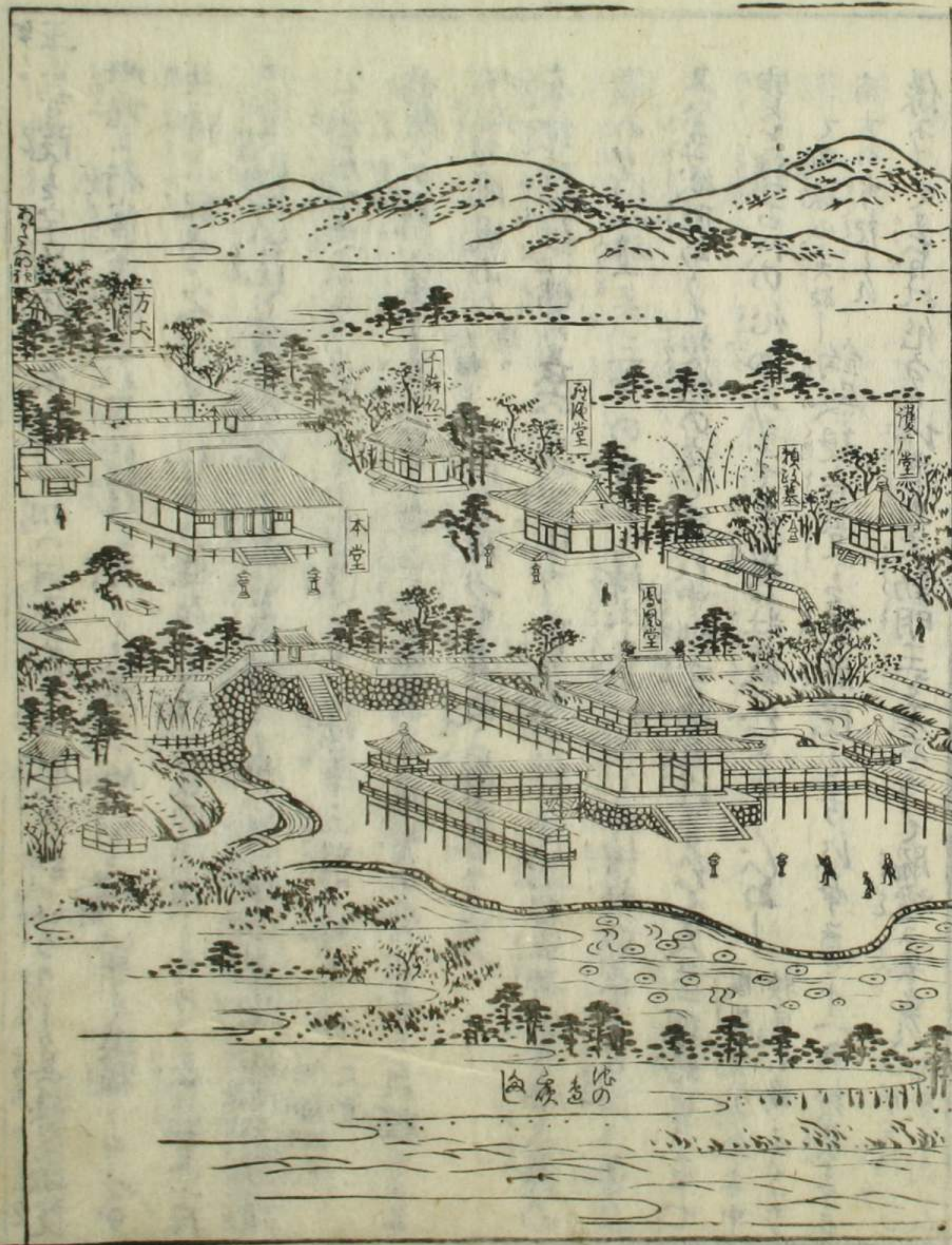
あきとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
あきとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

あきとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
あきとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

あきとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
あきとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

あきとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
あきとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

あきとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
あきとていふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて



平等院

佐渡撰

河風小

月夜記

月の

空をわく

八十

人

衣の

あり

定家

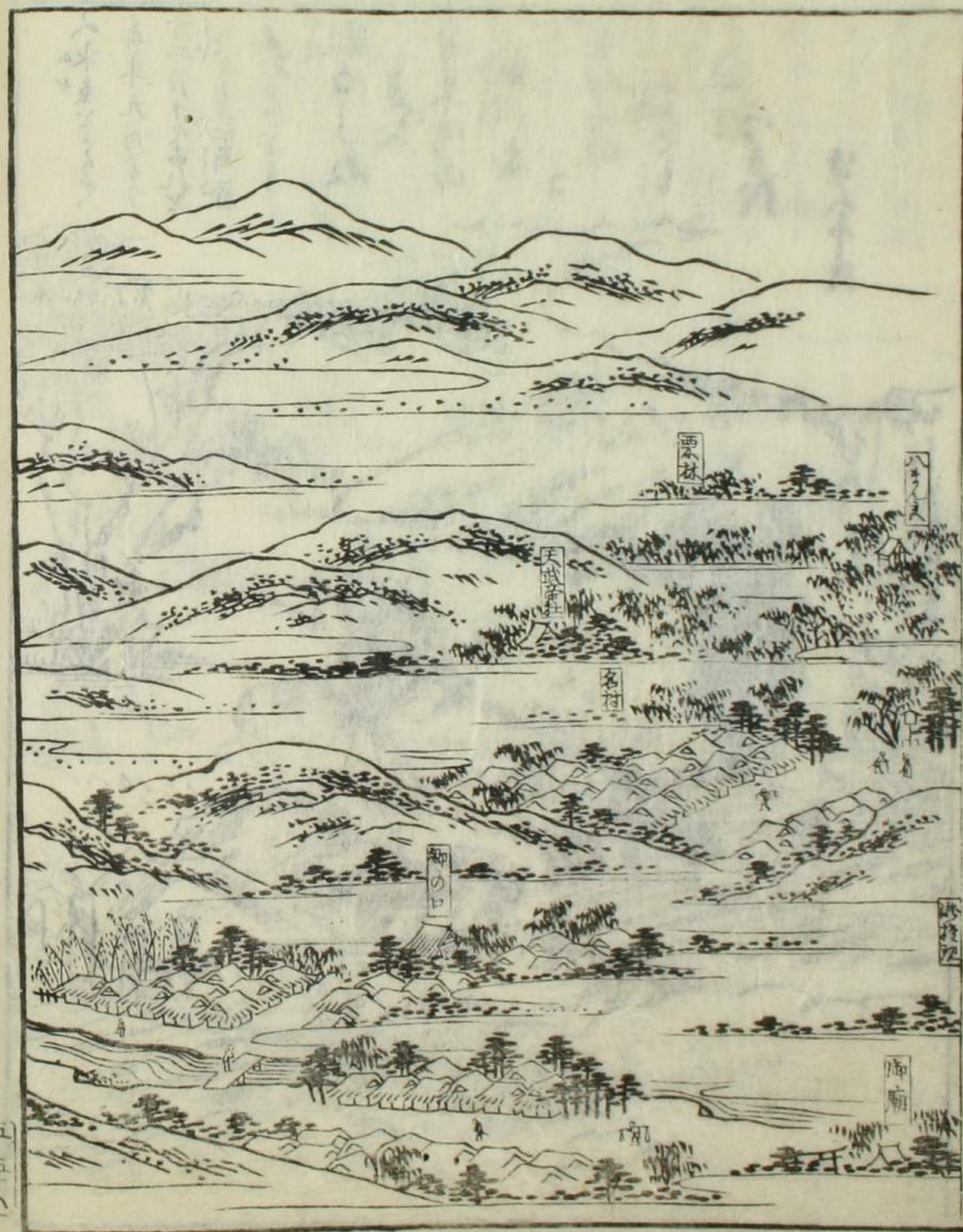
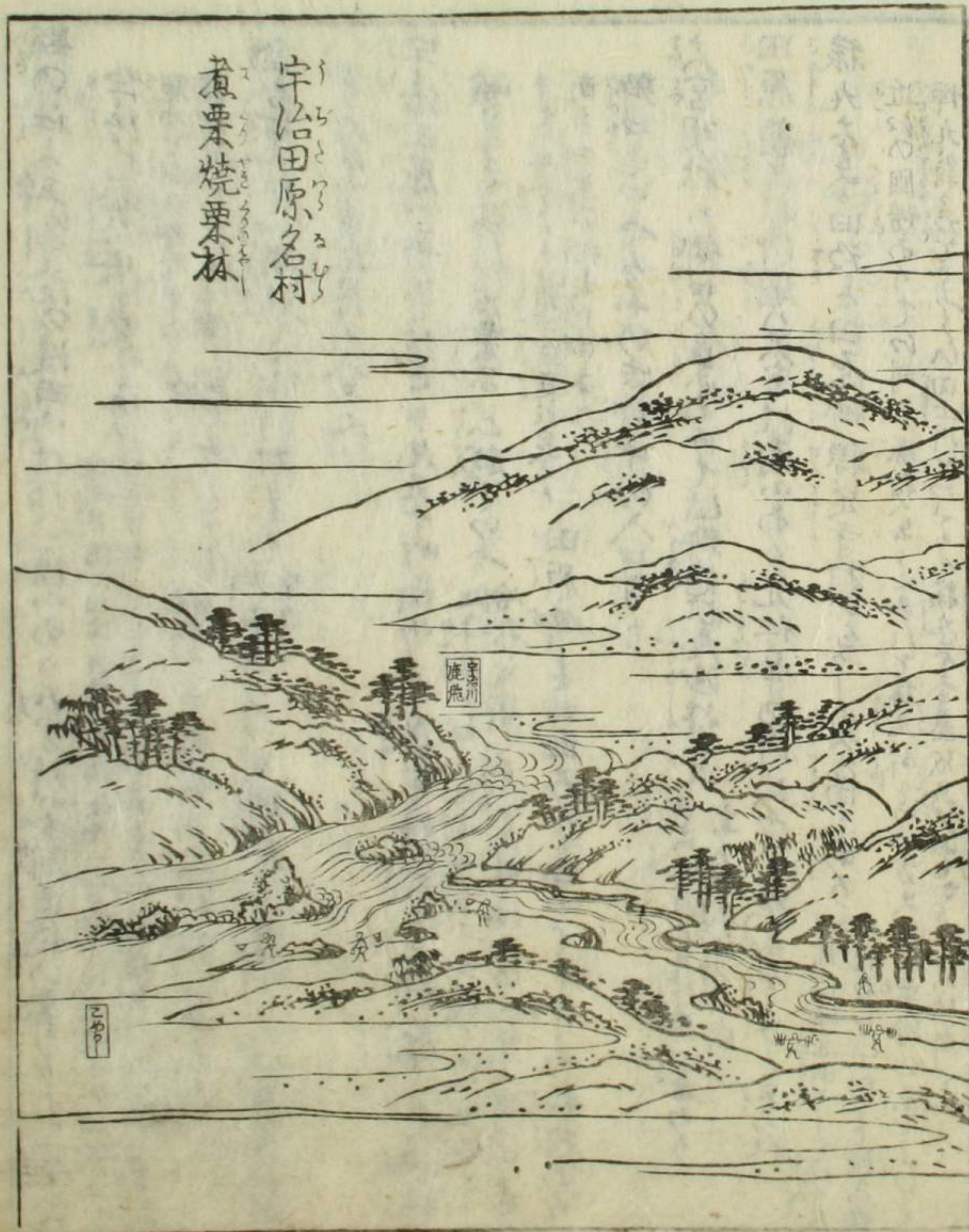
侍申群要ふふ城國
 空洛の御網代より
 日毎小鮎魚と進
 とらんけりも今と
 け例うて孫生の
 以の鮎魚と平等
 院より十町より
 川上機川のワの
 万よりあて人の
 の肩よりい居
 早鮎とやあ鮎と
 汲より興と
 した李白詩は
 鮎戸候と暮と
 くとけいのこ
 換とてとて



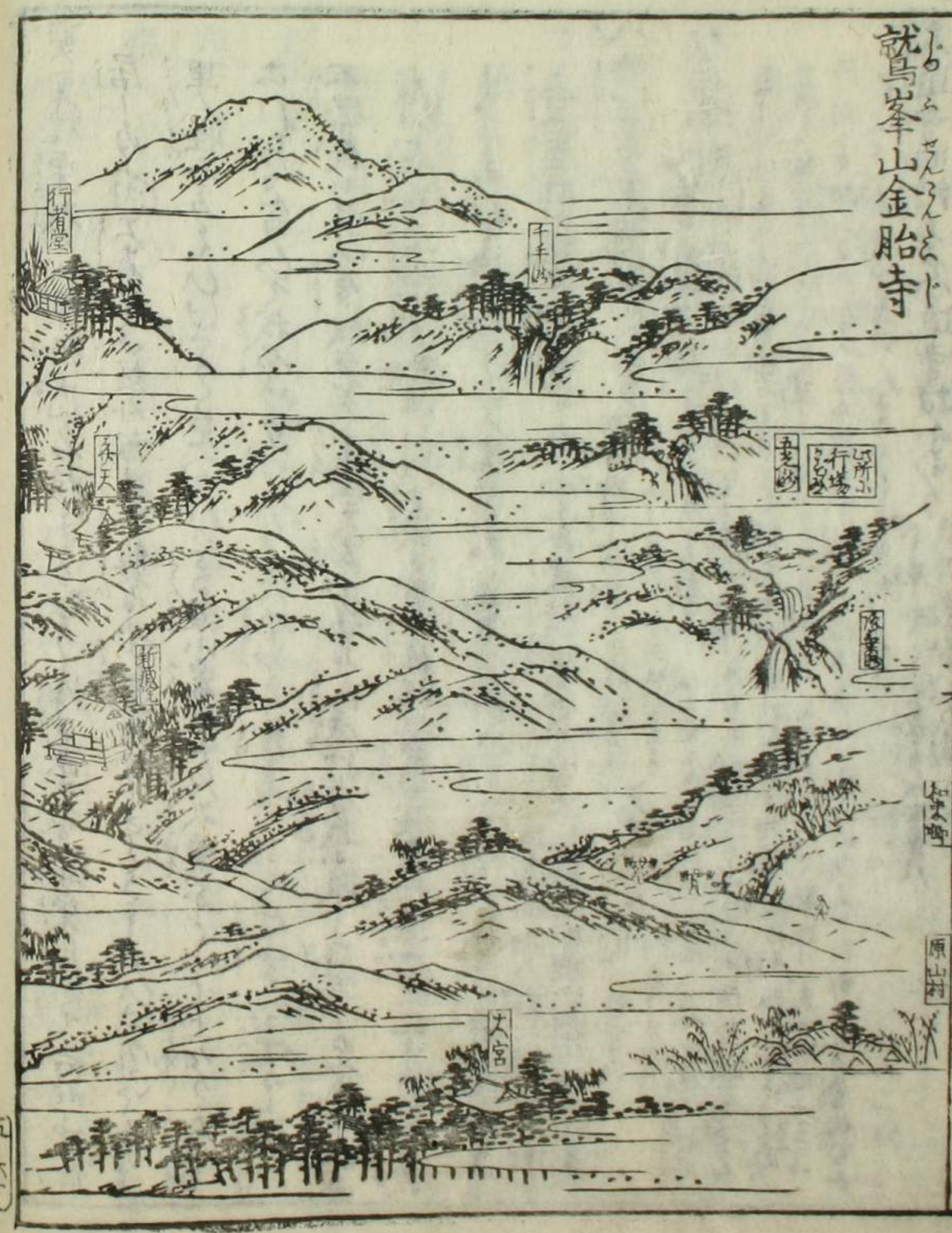
入氷魚とて
 毎年九月より
 十二月まであを
 賣とてた鳥餘
 ねるね
 身ね
 うち川の
 網代本
 ねの
 ひとも
 つま
 僕人より



宇治田原名村
煮栗焼栗林



鷲峯山金胎寺



空鉢峯
北星の
拜所



就鳥峯山金胎寺と和東卿内系村の巖あり 宇治田系卿より里達大通寺村より 天武

天皇の清宇白鳳四年九月ハ役優婆塞いふより天皇の聖徳太子の御宇ハハの嶺ハ八葉蓮華を表し釋迦嶽阿弥陀嶽弥勒嶽寶生嶽阿閼嶽虚空藏嶽不空嶽妓樂嶽と號し巖頭ハ坐して修法するより五七日なり是當山の国基と云其後元正帝ハ清宇天皇六年ハ越の白山の行者泰澄法師役芳乃依慕つて登山し七堂伽藍を造営し

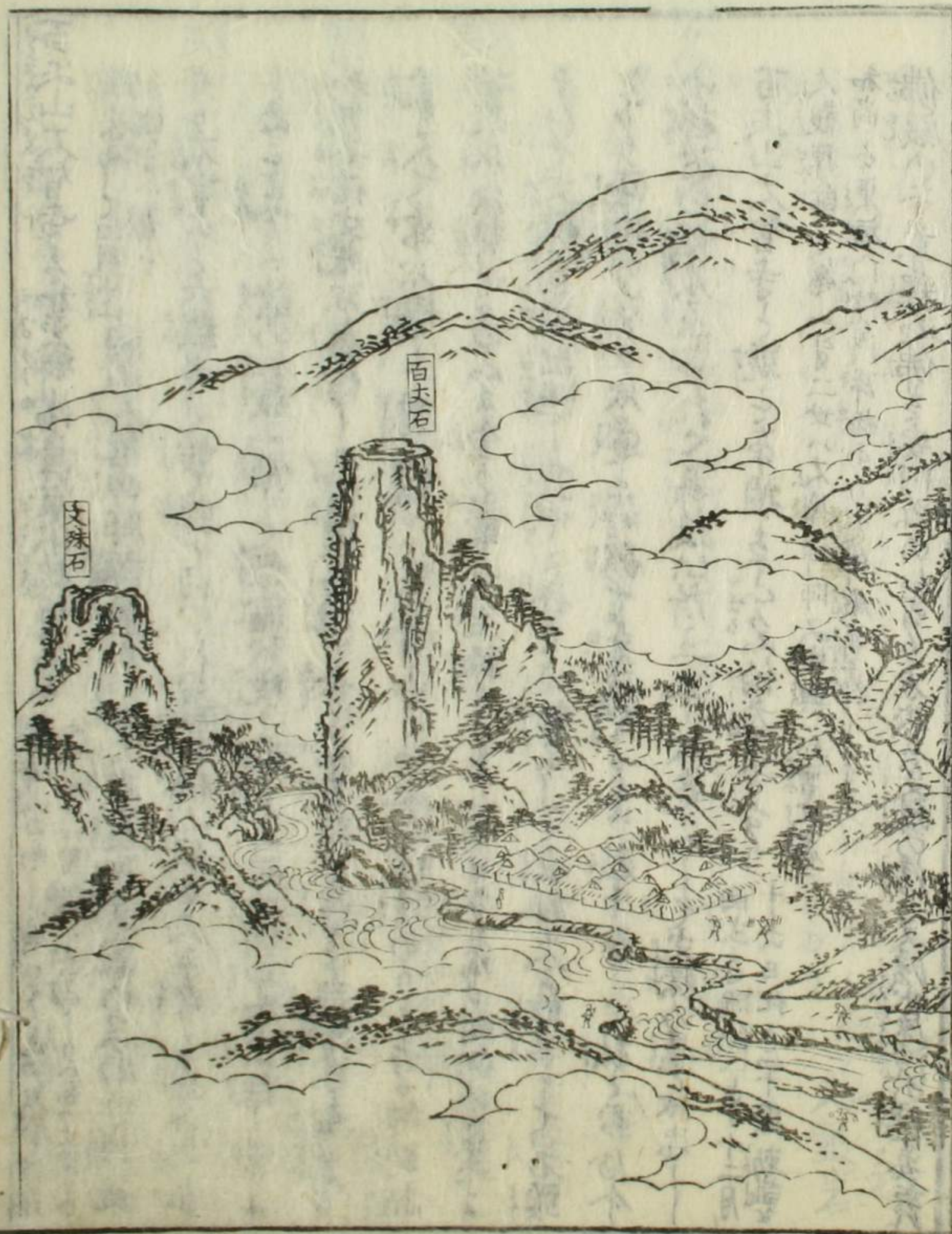
宗音ハ言ふて本堂を弥勒佛と尊と云 行基の多寶塔を愛媛の王城安多行基の旧居虚空藏嶽あり 用山堂ハ行行者像を安多社當山の鎮守石ハ日本金柱福満権現八幡宮金剛童子と號し空鉢峯ハ當山の絶頂より寶篋印塔を建てる北斗星ハ所之泰澄法師の所也此の傍法の耐石上ハ坐する虚空鉢を投るより鉢雲中ニ飛旋の姿を云ふに歸る泰澄入寂の後鉢を此地に埋て空鉢峰と云ふなり 和州金峯山と云ふ當山東北山脈を役行者泰澄の二師密法修行の聖嶽なり 登山の事此に云

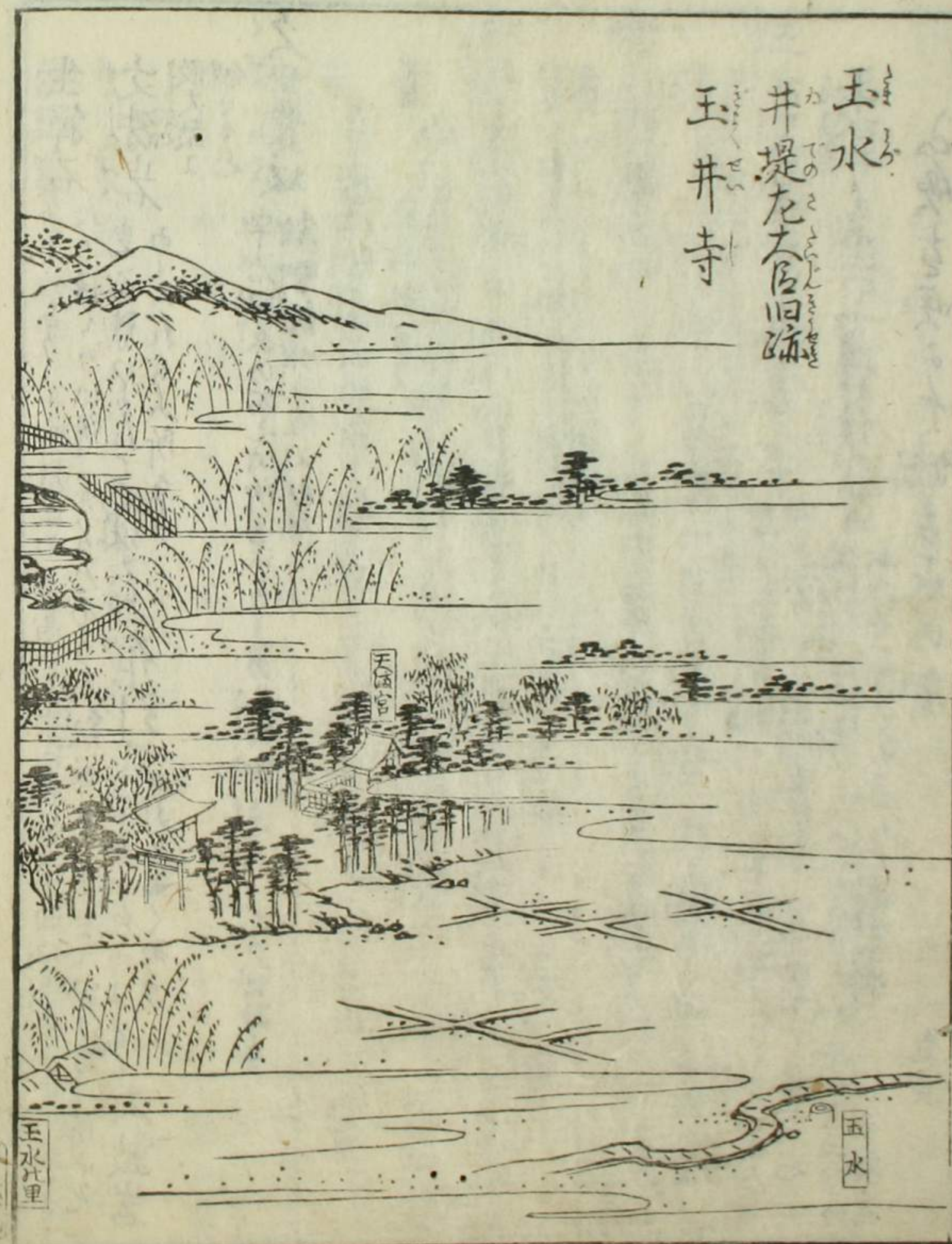
拜する俗と云ふ 此多輪東觀行道石千手沙の傍と五光沙の傍と云 行基の所と云 巖と云ふ 降三世龍 鐘懸 胎内潜 登岩 映して光なる 舍利石 佛岩 水晶山 熊倉

仙人窟 石塔岩 舍利石 佛岩 水晶山 熊倉 黒白岩 安住岩 天狗岩 龜石 境率龍 老龍

加持水 馬足洗水 養生芝 城段の所ハ所て遊のいふなり

中ハも比叡愛宕の嶺高く聳る右の方ハ琵琶湖の優々ハ水面雲と連る三上鏡の翠巒を相み鮮なり予ハのくくを志貴生駒金剛山蒼天と云ふ西海の海原兵庫の洲崎海原の山見れあつて摩耶六甲山の高根も此に類より一眼の中ハ遮りて雙眸の客と云ふぬ衆山は秀て巖頭嶺をくく推すも海原歩一のの老杉繁茂くくを白日張埋んど周り李白ハ人嬌の吟ふ五嶽と云一天台の四萬八千丈もさうに相對と云





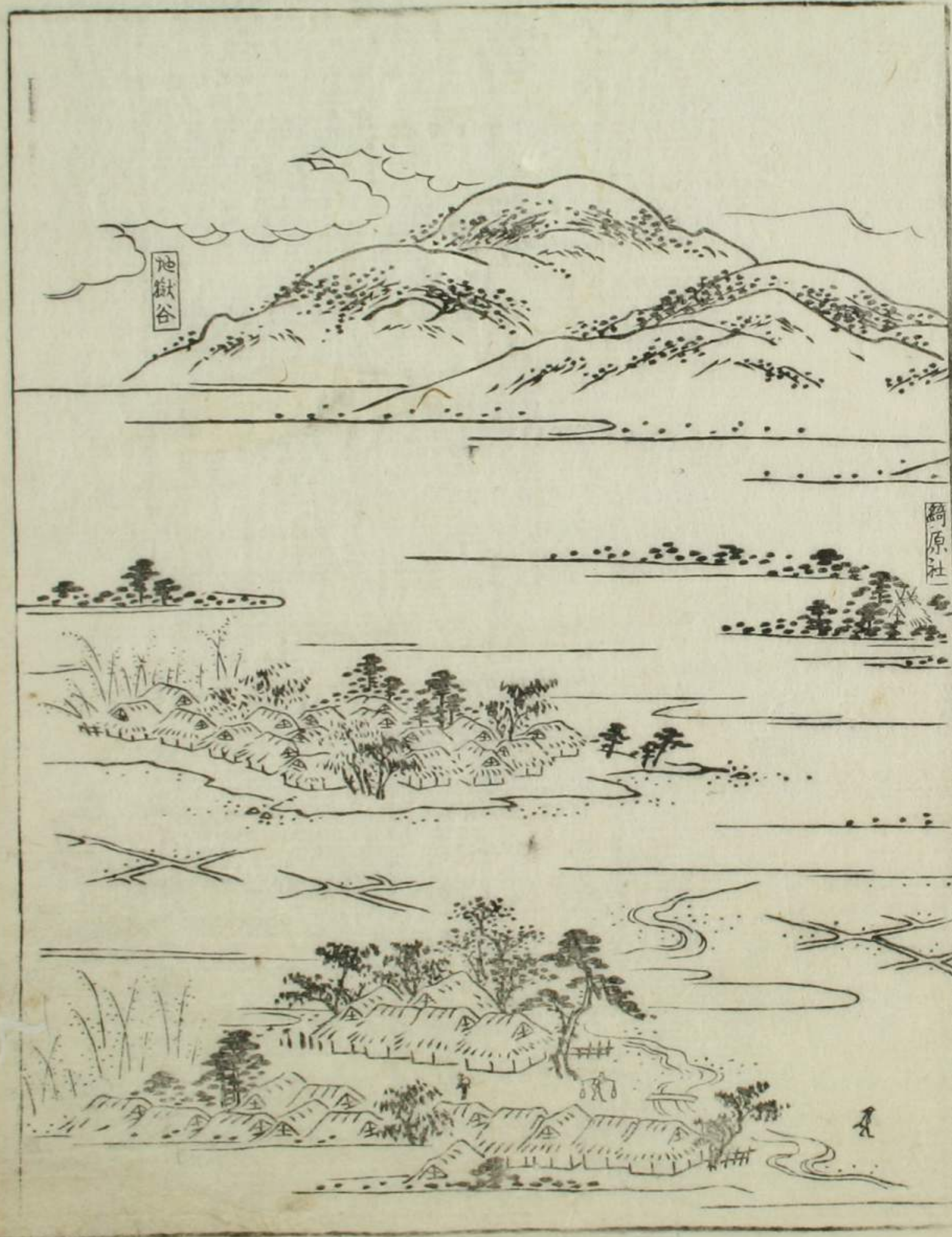
高倉宮社
 高倉宮社
 高倉宮社

光明山



地獄谷

高倉宮社



井坂の玉川ハ
名所六の玉川の
其一ツあり
たふは諸兄公
は河辺ふ茶藤
やうく極めい
より八き一を
暖みだれあね面
ふ映して金盞を
つゝ〇さやふ
あふさくらと



拾玉集

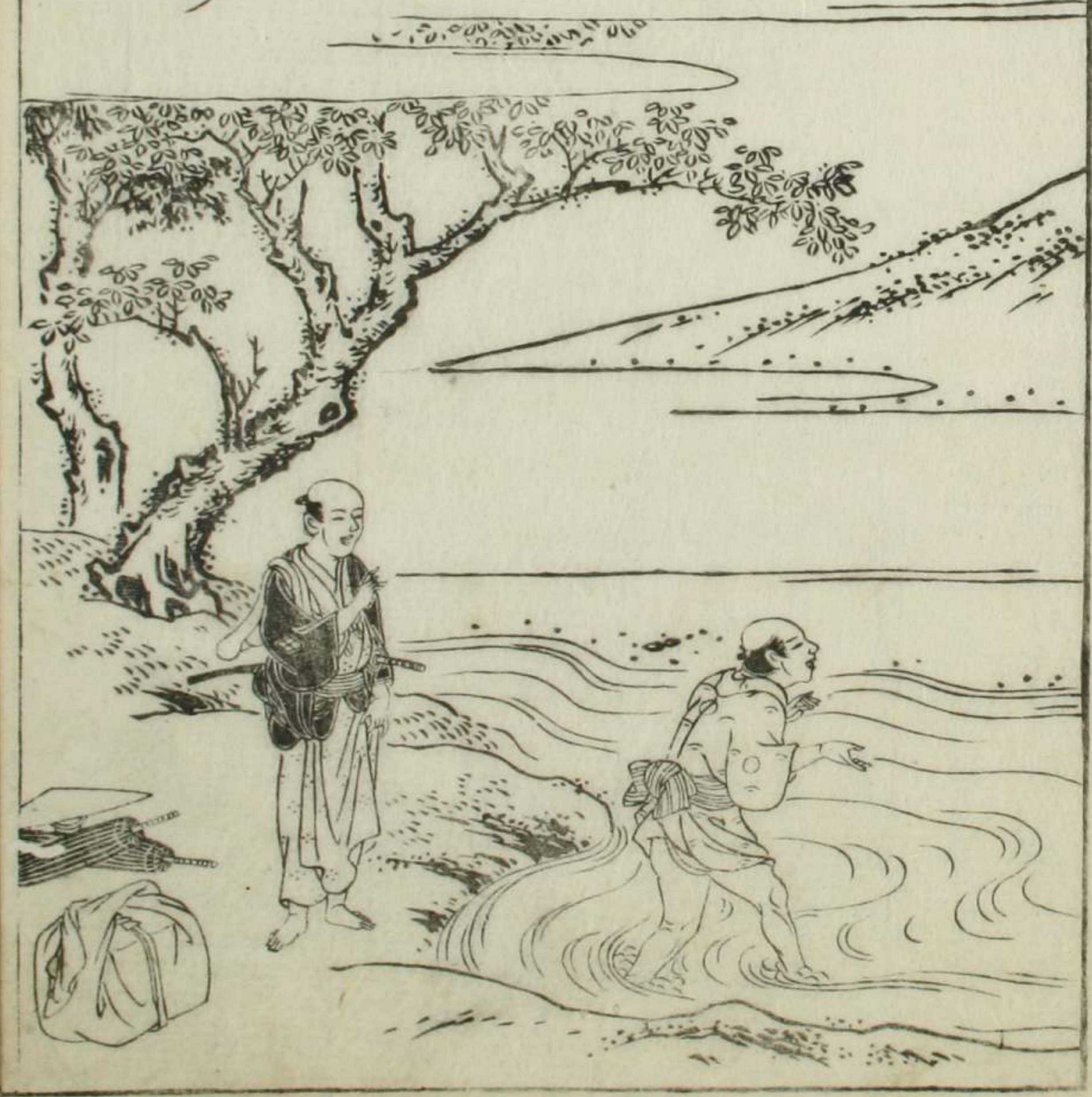
長保
井坂の河風
長保あて
ちてと
まいく
ふ吹れた

長録

玉葉

おれあ
井ての下
おめり
あふさくらと
玉川のあ

後成



高倉宮靈廟と玉水北南鳥居村のふり後白河院皇二の皇子茂仁親王は三子高倉

小所殿ありゆ高倉宮と称す 平家物語曰宮八南都や遷せり人々て混甲四百騎報

光明山寺 光明山の鳥居れ前とて返つとより雨のふりやうとておきりしに何とてとておきり

光明山寺 光明山の鳥居れ前とて返つとより雨のふりやうとておきりしに何とてとておきり

普門山蟹満寺 綺田村あり真言宗にて奉る釋教を安んずる長八八八

記曰む 一は卿人常ふ至善みて佛ははるの年あり女ををりたり初め

普門品と涌て 多悲やう一日田面遊びたりが村人蟹とてを殺さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

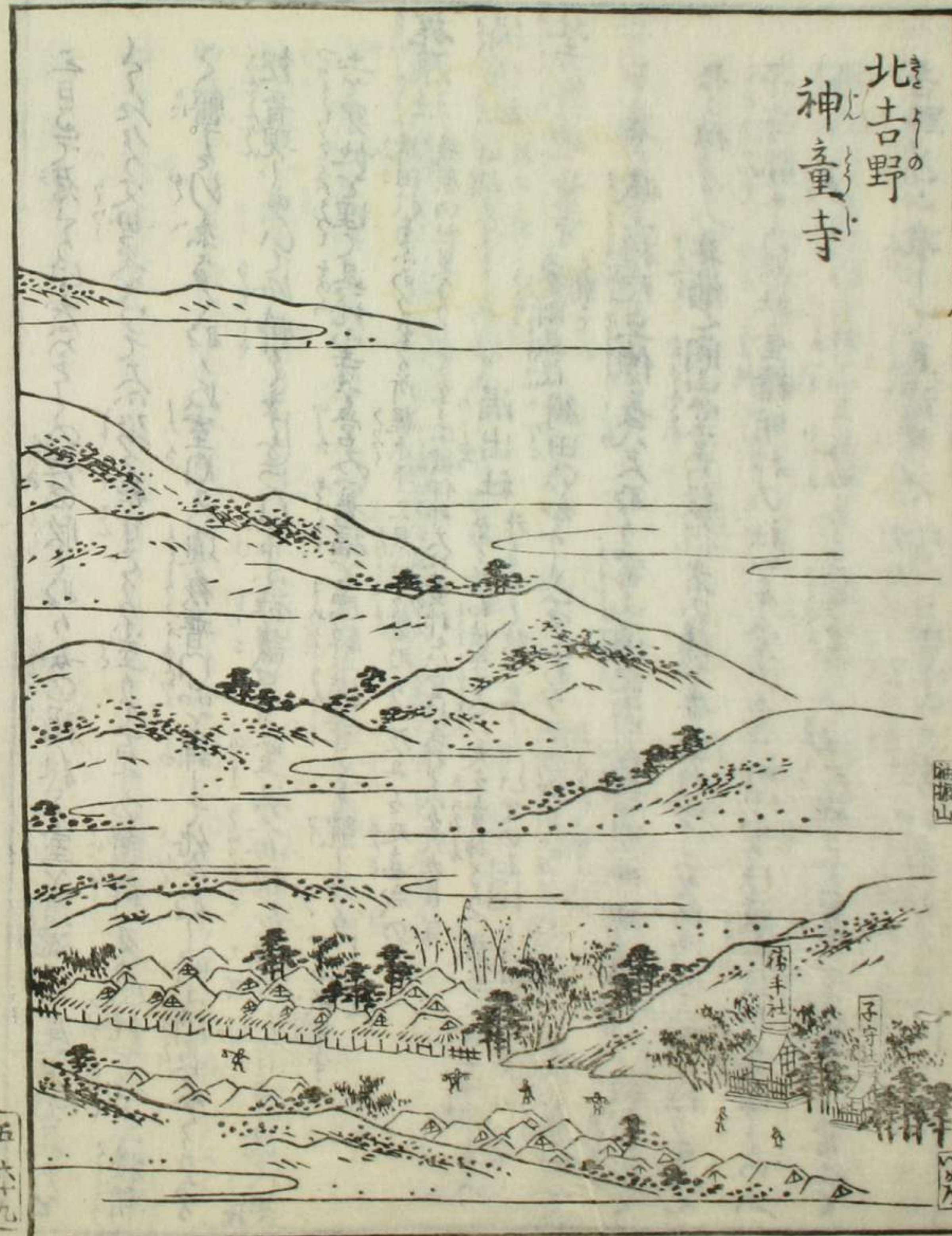
買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ

買りたり 具に耕せんといふとて地の墓とてありたりを放さんといふ



北吉野の
神童寺



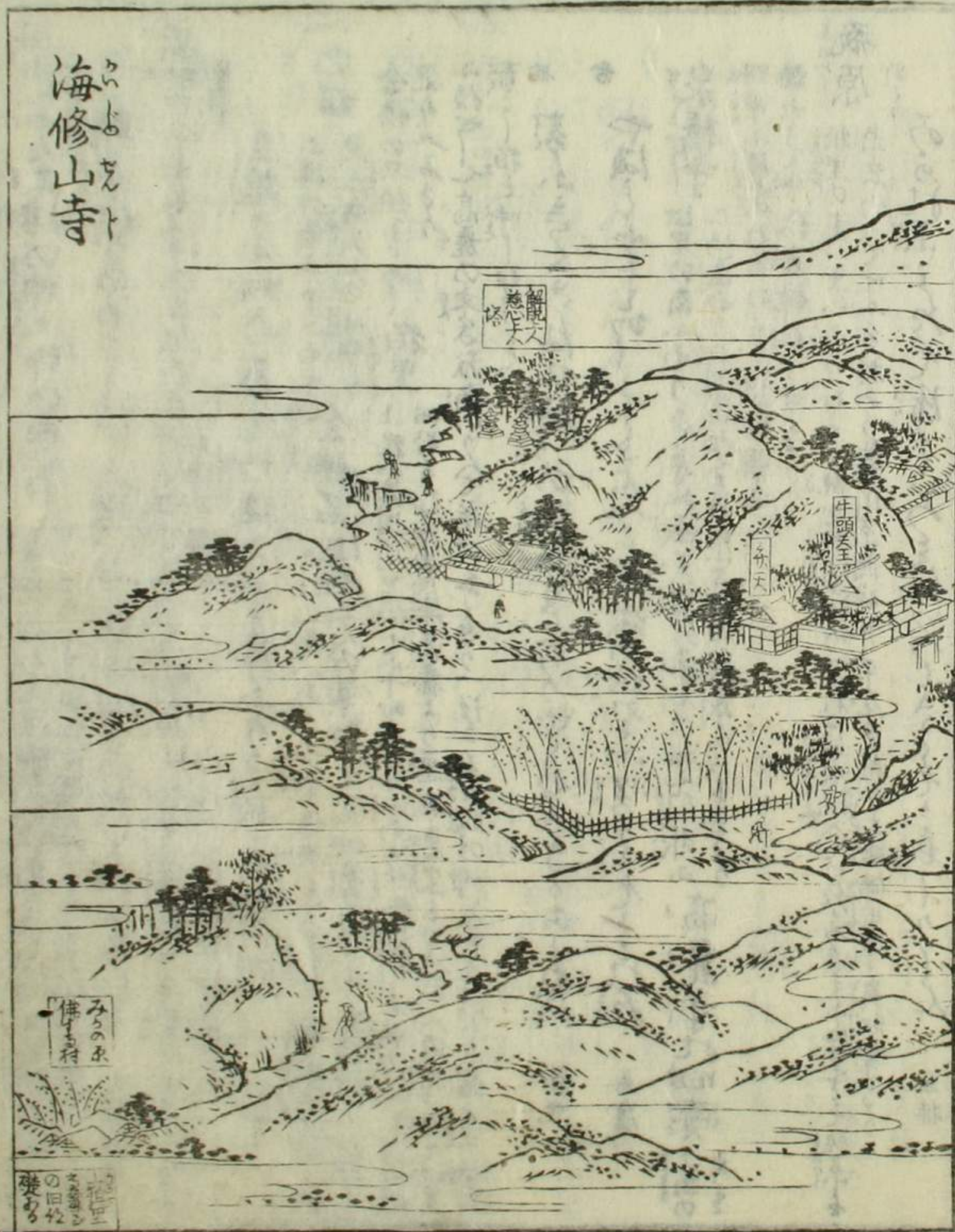


氏祚しそくの系けい八月十八日
右王みぎのうの社のやしろ本堂ほんどうの前まへより

哀堂
謙せし所之優重衡も塔なり

頸洗池くびひらい 重衡あかりの頸くび堂どうの良よ堀ほりの下した又またあり

海修山寺





恭仁の都れ旧地へ執原の西鹿背山のやうなり
聖武天皇十一年十二月
始て官城を造り帝行幸し賀世の西の道よりあり

新勅
吹風みちのつと久遠の都をあれふより又宮人のうらなれ
新勅
吹風みちのつと久遠の都をあれふより又宮人のうらなれ

新勅
吹風みちのつと久遠の都をあれふより又宮人のうらなれ
新勅
吹風みちのつと久遠の都をあれふより又宮人のうらなれ

新勅
吹風みちのつと久遠の都をあれふより又宮人のうらなれ
新勅
吹風みちのつと久遠の都をあれふより又宮人のうらなれ

新勅
吹風みちのつと久遠の都をあれふより又宮人のうらなれ
新勅
吹風みちのつと久遠の都をあれふより又宮人のうらなれ

新勅
吹風みちのつと久遠の都をあれふより又宮人のうらなれ
新勅
吹風みちのつと久遠の都をあれふより又宮人のうらなれ

新勅
吹風みちのつと久遠の都をあれふより又宮人のうらなれ
新勅
吹風みちのつと久遠の都をあれふより又宮人のうらなれ

新勅
吹風みちのつと久遠の都をあれふより又宮人のうらなれ
新勅
吹風みちのつと久遠の都をあれふより又宮人のうらなれ

新勅
吹風みちのつと久遠の都をあれふより又宮人のうらなれ
新勅
吹風みちのつと久遠の都をあれふより又宮人のうらなれ

鹿路山笠置寺ハ本津川の河上笠置のふもとあり
麓の民家多し川坂隔て西村あり

五月雨をふり上りふり下り川をたれふもどくれば
後成

當の衣笠置と號する昔天武天皇此の遊獵の時素より
後成

駿馬巖に膝を屈して動は天皇危急めて三寶衣禮し安泰に還る
後成

わのり此の佛閣を造営とて祈誓し今既の感應ありて衆馬速に
後成

進む故に具證して着御の蘭笠衣に遺し還幸し今佛閣を
後成

建立ありて笠置寺と號し今
後成

本堂に弥勒佛を奉尊とて
後成

三月堂あり當山圓縁の後南都東大寺に
後成

於て二月二月の佛法あり
後成

弥勒石
高六尺四寸四分圓縁の石面集て佛像あり

藥師石
高六尺四寸四分圓縁の石面集て佛像あり

後廣修の付具の者 榎本神鎮當の鐘樓 榎上人具より 淨檀金取
 銘曰金置山般若堂建久七年丙辰八月十五日 般若堂 後橋の西より解脱
 大和尚南無阿弥陀仏 所より解脱上人塔 向ふのふ
 童子龍 此のふりなり 後醍醐帝の皇居を當の類して存九二の九
 の乃其師石勒石の上の平地より楠正成と云ふふと始て味方といつ陶山
 小見ふが夜討や所いふの背やて水の方なりなり 野百の巖をいえて
 鳥も翔ぐく古松枝と雲蒼蒼露ふくく 麓の泉川と寄て白浪巖と碎
 く勢のりて水流の委曲驚然ふくく 山別置の勝地ありて千巖秀と競ひ萬
 壑流成争へくく 山水の美といつた
 栗栖天神宮 多置山の麓人家の西ありあり 大満天神と星堂寺のの榎本
 飛鳥路 多置の十余町あり 陶山小見ふのふり 有市 飛鳥路の北より多置より
 大河原 有市の西より山所山城大和 伊賀寺の幽陽あり

